

## 資料 2

### 9 分析項目別全事例一覧表 (表 54~表 63)



表54 分析項目別全事例一覧表(健康状態)

IDNo.	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他
2133	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2134	精神発達遅滞	脳出血	高血圧	-	-	内科往診
2135	精神発達遅滞	統合失調症	-	-	-	精神科に通院、服薬中
2136	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	発達外来通院
2137	精神発達遅滞	感音性難聴	躁うつ病	-	-	精神科入院中
2138	筋ジストロフィー	精神発達遅滞	-	-	-	小児科通院中
2139	精神発達遅滞	脳梗塞	左上肢機能全廃	左下肢の著しい障害	-	脳外科へ通院
2140	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
2141	アスペルガー一症候群	適応障害	軽度精神発達遅滞	-	-	精神科通院
2142	統合失調症	精神発達遅滞	不明	不明	不明	精神科通院
2143	統合失調症	-	-	-	-	精神科通院中、大量服薬することあり
2144	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
2145	精神発達遅滞(重心)	脳原性運動発達遅滞	てんかん	-	-	環境変わると発作が起こりやすい
2146	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
2147	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2201	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2202	脳血管性麻痺(もやもや病)	精神発達遅滞	-	-	-	誤嚥性肺炎で入院し胃ろうを設置
2203	脳性まひ	そくわん症	難治性てんかん	股関節脱臼	不明	てんかん発作が頻回
2204	精神発達遅滞	ADHD疑	-	-	-	家庭内で問題行動があり現在精神科に入院中
2205	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2206	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
2207	精神発達遅滞	-	-	両示、小指関節欠損	-	-
2208	統合失調症	精神発達遅滞疑	-	-	-	未治療で経過し、9ヶ月前から精神科に入院
2209	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
2210	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2211	慢性腎炎による腎機能障害	精神発達遅滞疑	-	-	-	泌尿器科通院
2212	脳性麻痺	精神発達遅滞	-	-	-	-
2213	精神発達遅滞	-	-	-	-	精神科病院に入院中

表54 分析項目別全事例一覧表(健康状態)

2214	重症心身障害	脳性麻痺	精神発達遅滞	褥瘡	-	頻繁に閉塞呼吸が出現し、バギングが必要となる
2215	統合失調症	-	-	-	-	精神科通院
2216	僧帽弁狭窄症による心臓機能障害	-	-	-	-	循環器科、内科通院
2217	PKC(神経系の疾患)	精神発達遅滞	-	-	-	神経内科通院
2218	精神発達遅滞	気分障害(精神科受診)	-	-	-	髪のもむしり、吐き気や失禁。吐き気はかかりつけ医に受診
2219	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2220	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2221	精神発達遅滞	てんかん	-	-	-	精神科通院
2222	統合失調症	パニック障害	うつ病	腰痛	-	精神科は定期的に通院 腰痛は訴え絶えずあり
2223	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
2224	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
2225	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-
2226	結節性硬化症	てんかん	精神発達遅滞	-	-	精神科通院
2227	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
2228	統合失調症	高次脳機能障害	-	脳挫傷	-	精神科通院
2229	精神発達遅滞	自閉症	てんかん	-	-	精神科通院
2230	統合失調症	高血圧	-	-	-	精神科病院入院中
2231	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-
2232	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-
2233	精神発達遅滞	自閉症	アトピー性皮膚炎	-	-	精神科通院
2234	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-
2235	統合失調症	糖尿病(インシュリン注射有)	乳がん(乳房摘出。ホルモン療法継続中)	-	-	精神科通院
2236	統合失調症	不明	不明	-	-	精神科通院
2237	統合失調症	-	-	1年程前に右足大腿骨頭部骨折	-	精神科通院
2238	精神発達遅滞	-	-	-	-	-

表55 分析項目別全事例一覧表(心身機能・身体構造)

IDNo.	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他
2133	重度知的障害、判断能力に遅れがある	問題なし	問題なし	-
2134	中度知的障害、相手の話は一通り理解できている	脳出血の後遺症により右半身に麻痺あり	問題なし	言語障害あるが聞き取れる範囲
2135	中度知的障害があり気分がムラがあり	問題なし	問題なし	-
2136	中度知的障害ありこだわり行動がある	問題なし	物を回して、それを見るのが好き	人混みが苦手、偏食がある
2137	最重度知的障害	問題なし	聴覚障害あり、若干聞こえる模様	相手の口や動作はじっと見るが理解度は不明
2138	重度知的障害	体幹機能障害	問題なし	-
2139	中度知的障害	脳梗塞の後遺症により左半身に不自由あり	問題なし	-
2140	最重度知的障害あり、こだわりが強い	問題なし	問題なし	-
2141	家族関係が主な原因で精神的に不安定。対人コミュニケーション困難。	問題なし	問題なし	幻聴かフラッシュバックか不明だが人の声が聞こえることがある。
2142	軽度知的障害	不明	不明	不明
2143	対人関係で不安定になりやすい	以前は車いす利用していたが現在は問題なし	問題なし	-
2144	重度知的障害あり、こだわり行動があり	問題なし	特定の物、音に過敏に反応	特定の衣類を好む
2145	最重度知的障害。発達の遅れが全体的にあり	体幹機能障害によりはいはいで移動	問題なし	風邪をひきやすく、喘息あり
2146	最重度知的障害あり。こだわり行動がある	問題なし	特定の状況による視覚の過敏さと、特定の音が苦手	人混みが苦手
2147	軽度知的障害あり判断能力に遅れがある	問題なし	問題なし	-
2201	重度知的障害あり精神的には安定している	問題なし	問題なし	-
2202	中度知的障害あり、発語がほとんどない。認知症のような感じ	筋力低下で歩行や立ち上がりが困難	問題なし	嚥下困難
2203	最重度知的障害あり	不明	不明	吸引、酸素、経換栄養
2204	幼少期の虐待の影響あり 軽度知的障害あり	問題なし	問題なし	-
2205	中度知的障害あり、判断能力に遅れがある	問題なし	問題なし	-
2206	重度知的障害あり	問題なし	問題なし	-
2207	軽度知的障害、児童でもあり判断能力は十分ではない	問題なし	不明	-
2208	意欲低下 知的障害疑い	廃用性の筋力低下あり	問題なし	-
2209	最重度知的障害あり、こだわり行動がある	問題なし	特定の音を嫌う	特定の人の匂いを好む 睡眠障害あり
2210	軽度知的障害	問題なし	視力に左右ばらつきがあるが問題なし	-
2211	判断能力がやや劣るため、日常的な支援が必要 知的障害疑い	問題なし	問題なし	-
2212	重度知的障害あり、判断能力に遅れがある	左上下肢麻痺	問題なし	-
2213	不安や不満が解消されるまで訴えが続く。中度知的障害あり	問題なし	問題なし	吃音あり

表55 分析項目別全事例一覧表(心身機能・身体構造)

2214	最重度知的障害あり、意思疎通困難	四肢麻痺 体幹機能障害	問題なし	胃瘻
2215	精神的に不安定である	夕方になると体が重くなり動かない	問題なし	-
2216	精神的に不安定になりやすい	ふらつき・めまいあり	問題なし	-
2217	軽度知的障害あり。すぐかっとなる	問題なし	問題なし	-
2218	開拓校での人間関係のストレスによる自傷行為、嘔吐や失禁有 軽度知的障害あり	問題なし	問題なし	問題なし
2219	重度知的障害 情緒は安定している	問題なし	問題なし	-
2220	軽度知的障害	問題なし	問題なし	25歳になってから手帳を取得
2221	自傷行為あり(境界性パーソナリティー障害?) 軽度知的障害あり	問題なし	問題なし	道路飛び出し、路上での横になる等危険行為多数
2222	精神疾患あり、不安定	足指の変形で歩きづらい	問題なし	-
2223	重度知的障害あり こだわり行動があり	問題なし	特定の音が苦手	特定な物しか食べない
2224	中度知的障害あり 刺激によっては不安定	問題なし	問題なし	-
2225	最重度知的障害 こだわり強く、予定の変更でパニックになる	問題なし	視覚的情報優位	言葉によるコミュニケーションは困難
2226	安定している 軽度知的障害あり	問題なし	色発作あり	-
2227	軽度知的障害 理解力はあるが、人とのコミュニケーションは苦手	問題なし	問題ない	人とと話をすることは苦手、黙り込んでしまう
2228	被害関係妄想・感情不安定 集中力の低下	問題なし	両眼視野1/2以上欠損	-
2229	時間、予定にこだわり強く、父に対して被害あり、重度知的障害あり	問題なし	遠視、乱視あり、段差や色の違いがわからない 視覚的コミュニケーション有効	花粉症により高熱を出すこともある
2230	意欲低下	問題なし	問題なし	-
2231	数字や物事の手順にこだわりあり パニック、自傷あり 中度知的障害あり	問題なし	視覚情報優位	身体の触覚過敏あり、触れられることを嫌がる
2232	重度知的障害 物に対するこだわり強い	問題なし	問題なし	言葉によるコミュニケーションでは不十分
2233	最重度知的障害 パニック、自傷あり	体幹機能障害	不明	表出言語なし こだわりが強く、一度失敗をするとその場所に行けなくなる
2234	重度知的障害 時間の区切りにこだわりあり	問題なし	場面により耳ふさぎあり	満腹感はない
2235	比較的安定している	問題なし	問題なし	不明
2236	妄想あり	問題なし	問題なし	-
2237	安定している	足が上がらないため、転びやすい	問題なし	歯がなく言葉が聞き取りづらい
2238	嫌な状況から逃げ出してしまう。軽度知的障害あり	問題なし	問題なし	-

表56 分析項目別全事例一覧表(生活機能・活動 上段:実行状況(している) 下段:能力(できる))

IDNo	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
2133	可	自立	食事は弁当、外食が主で、その他は必要最低限は行っている	不明	亡き親の残した財産を浪費し月100万円ほど使う
	可	自立	掃除や片付けなどできない	過去に八百屋手伝いなどしていたため支援があれば可能	適切な金銭管理はできない
2134	不安定だが一人で可	排泄など一部介助	調理は可、買い物や掃除等はヘルパー支援	過去に就労経験があるが、現在はなし	-
	可	排泄など一部介助	調理は可、買い物や掃除等はヘルパー支援	おそらく不可	-
2135	可	自立 整容は不十分	妹が行い本人はほとんど行わない	就労移行を利用	兄により金銭管理
	可	自立	家事全般できる	不安定さはあるが可能	自己では浪費気味
2136	可能だが見守り要	衣類の着脱は一部介助	母親がおこなう	児童のためなし	-
	可能だが見守り要	衣類の着脱は一部介助	児童のためお手伝い程度	児童のためなし	-
2137	可	更衣、入浴などに介助を受けている	母が行う	不明	じっとしていることはあまりなく常に動く、衣服を脱ぐ
	可	排泄、食事は自立	経験なく不明	経験なく不明	歩いて一人で外出するが安全管理は出来ない
2138	単独で可能だがやや不安定	食事は見守り	母親・ヘルパーが行う	児童のためなし	-
	単独で可能だが見守り要	排泄・更衣等は支援が必要	児童のため行う状態ではない	児童のため不明	-
2139	単身で可だが段差などで転倒することもある	入浴は介助を受けている	母が行う	自宅にて過ごすのみで特に何も行っていない	脳梗塞により出来ないことがふえ、意欲を失っている
	見守りは必要だが単身で可能	移動や食事、更衣などはほぼ自立	経験なく不明	軽作業は可能	脳梗塞の後遺症により活動制限がある
2140	可	可	家族が行う	授産施設にて作業を行う	-
	可	可	できない	常に見守りが必要	-
2141	単独で可能。	自立。	ほとんど母親が行い、本人は一部(洗たく物を取りこむ等)	無職。福祉的就労利用なし。	普通車運転免許あり車を運転している。
	単独で可能。	自立。	最低限のことはできるが、食事を作ることが苦手。	大まかな手帳作業に適性あり。判断苦手。	-
2142	不明	不明	不明	不明	-
	不明	不明	不明	不明	-
2143	可	自立	ヘルパーの支援一部あり	-	同居男性や入院中の家族の介護を行うなどしている
	可	自立	ほぼ自力で行える	就労の意欲はあまりない	同居男性や入院中の家族の介護を行うなどが出来る
2144	可能だが見守りが必要	衣類の着脱は一部介助	祖母、母親が行う	児童のためなし	-
	可能だが見守りが必要	衣類の着脱は一部介助	児童のためお手伝い程度	児童のためなし	-
2145	はいはいで移動	食事、排泄など練習中	本人は兎でもあり行えない、母が行う	児童のためなし	何でも口に入れ確かめるため異食の危険あり
	訓練で獲得可能	ほぼ全介助	不可	児童のためなし	何でも口に入れ確かめるため異食の危険あり
2146	可能だが見守りが必要	衣類の着脱は一部介助	母親がおこなう	児童のためなし	-
	可能だが見守りが必要	衣類の着脱は一部介助	児童のためお手伝い程度	児童のためなし	-
2147	可	自立	母が行う	民間企業にて障害者就労	お給料は遊びで使い切って母に小遣いをもらう
	可	自立	自宅で行う意欲はないが支援があれば可能	問題なく勤務できている	金銭管理が適切には出来ない(兄が後見人)
2201	可	食事や排泄等ほぼ自立	家族が行っていた	授産施設で作業を行っている	両親の病氣により数ヶ月前より短期入所と弟の援助で生活している
	可	排泄の失敗時、洗濯などは支援が必要	不明	軽作業等、支援があれば可能	不明
2202	不可	リハビリ中だが、全般に介助が必要	妻、ヘルパーが行う	入院前までは作業所での軽作業	不明
	不可	ほぼ全介助	不可	見当識低下しており集中して作業は不可能	不明
2203	不可	全身の筋力直が高い	児童のため本人は行っていない	幼児のため未獲得	不明
	不可	幼児のため未獲得	児童のため本人は行っていない	幼児のため未獲得	不明
2204	可	自立	母が行う	中学卒業後は職業訓練校に通ったが退学	入院中はソフトボールを楽しんでいる
	可	自立	お手伝い等は可能	作業等は可能	身体を動かすことが好き
2205	可	自立	児童施設入所中、洗濯や掃除等を行う	養護学校高等部3年生、一般就労に向け練習中	-
	可	自立	支援があれば可能	支援があれば可能	-
2206	可	ほぼ自立	母、ヘルパーが行う	通所更生施設で作業を行っている	落ち着きなく絶えず動いている
	可	入浴は母の制限がありしていないが可能	不明、支援があればできることもあると思われる	簡単な作業等、支援があれば可能	指示・誘導で安定する
2207	可	自立	祖母が行い、祖母にはヘルパー支援あり	学生のため不明	-
	可	自立	お手伝い程度は可能	支援があれば可能	-
2208	一部介助	食事・排泄一部介助	入院中で行っていないが自宅でもおそらく行っていない	不明	不明
	一部介助	食事・排泄一部介助	支援を受ければ可能	不明	不明
2209	可能だが見守りが必要	生活全般に介助が必要	祖母、母親がおこなう	児童のためなし	-
	可能だが見守りが必要	生活全般に介助が必要	児童のため、おこなう状態ではない	児童のためなし	-
2210	可	ほぼ自立	施設入所中で、掃除や洗濯等を行う	一般就労目指し学校で実習を受けている	-
	可	保清など不十分	十分には出来ないため支援が必要	細かい作業は苦手	-
2211	可	自立 基本的な生活習慣が身についている	食事は惣菜を購入し、米を炊くことができる 掃除は不十分	現在は無職	毎日の散歩は日課
	可	自立 原道に箸を留置し時間排泄を行う	相談援助でできることも広がる可能性あり	就労していた会社が倒産して以来無職	不明
2212	可能だが支えが必要	ほぼ全介助	ヘルパーが行う	半年前まで作業所にて軽作業を行う	-
	可能だが介助が必要	ほぼ全介助	できない	支援があれば軽作業は可能	-
2213	単独で可能	自立	本人:たまにちよこつとやる。妹:全くできない	していない	不明
	単独で可能	自立	支援者の声掛けが必要	声掛けがあれば軽作業は可能、不安事有ると中断する	不明

表56 分析項目別全事例一覧表(生活機能・活動 上段:実行状況(している) 下段:能力(できる))

2214	不可能	全介助	家族が行う	入院中	不明
	不可能	全介助	不可能	不可能	不明
2215	可	ほぼ自立	本人が行う	-	-
	可	可能だが見守り要	夕方は体調が悪くできない	簡単な作業であれば可	-
2216	杖を使用しゆっくり移動するが見守りが必要	ほぼ自立だが洗身は不十分	掃除・買い物はヘルパーが行う	高齢のためなし	-
	数センチの段差でもつまづく	可能だが一部に介助要	簡単なものは調理可能	不明	-
2217	可	自立	不明	不明	家にずっといるのがいや
	可	自立	手伝い約束してもできない	不明	-
2218	可	自立	時々…弁当を作り、洗濯取り込みたみ、おつかい	手先は器用で理解力もあるが、在宅生活の長さから忍耐力がない。	-
	可	自立	弁当を作り、洗濯取り込みたみ、おつかいは習慣化されれば毎日可能	閉居での人間関係のストレスから通えない日が多いことから見て、職業能力は身につけていない。	-
2219	可	自立	洗濯ものの片付け、血洗いなどを行っている	就労継続支援利用	不明
	可	高齢の母の手伝いをもある程度できる	不明	作業能力は高い	不明
2220	可	自立	母が行う	経験なく不明	専門学校卒業後在宅生活
	可	自立	支援があれば可能	意欲があまりないが、作業等は可能	-
2221	可	可	やらない	ミシ等の縫製作業は可	-
	可	可	適切な援助があれば可	-	-
2222	可(外出は杖歩行)	自立	腰痛などから買い物や掃除の支援を希望	過去就労していたようだが現在は不明	-
	可	自立	ほぼ自力で行える	不明	-
2223	可能だが見守りが必要	生活全般に介助が必要	母親がおこなう	幼児のためなし	-
	可能だが見守りが必要	幼児のため未獲得	幼児のためおこなう状態ではない	幼児のためなし	-
2224	可	自立	母が行うが不十分、本人はヘルパー支援あり	軽作業等	-
	可	自立	母の影響があり同居では本人が行うことは困難	過去は投産施設利用あり、軽作業等は可能	-
2225	可	基本的な生活習慣は身につけていない	自ら家事を行うことはない	決まった作業については、ある程度継続して作業している	不明
	可	基本的な生活習慣は身につけていない	自ら家事を行うことはない	見過しのきかないことや新しいことは苦手	不明
2226	可	自立	教えてもらえば可能	有り(就労移行支援利用)	-
	可	自立	教えてもらえば可能	可能	-
2227	可	自立	叔母が行っている	一般就労	貯金を自己管理したところ、全額使ってしまった
	可	自分から行おうとはしない	自分から行うことをしない	不明	金銭管理は困難
2228	可	自立	家族が行う	休職している	-
	可	自立	簡単な調理はできる	支援が整えば可	-
2229	可	排泄時にティッシュペーパーで遊んでしまう	母が行う	学生のためなし	不明
	可		本人が行うことはほとんどない	簡単な作業内容は可能	不明
2230	単独で可能	自立	洗濯可能(他の家事については入院中のため必要なし)	高齢のため必要なし	-
	可能	自立	声掛け有れば可能	高齢のため必要なし	-
2231	可	ほぼ自立	母が行う	手順や数にこだわり能率を落とすしまう	不明
	可	ほぼ自立	高校生で、やらせていない	訓練により改善できる	不明
2232	可	ほぼ自立	母が行う	学生のためなし	うさぎのパンやで活動
	可	食事は制限あり 排泄は不安定になると回数が増える	不明	支援つぎで簡単な作業であれば可能	衛生面の配慮はできず
2233	手を添える、すぐそばで見守るなど	食事、排泄は一部介助 入浴、着替え等は全介助	母が行う	学生のためなし	不明
	単独の歩行も可能だが不安定で転倒の危険常にあり	すべての動作に介助が必要	本人が行うことはない	支援つぎで簡単な作業であれば可能	不明
2234	可	自立	母が行う	学生のためなし	母の目を盗んで包丁を使うなどすることがある
	可	自立	一人で野菜を切るなどをしてしまうが、やらせない	簡単な作業内容は可能	不明
2235	可能	自立	ヘルパーに掃除、調理を依頼	していない(幻聴始まり、断念)	-
	可能	自立	可能(声掛け必要)	可能(声掛け必要)	-
2236	単独で可能	自立	一切しない、親とヘルパー任せ	一般就労を希望している	母親が高年福祉課で金銭管理されているため、本人も間接的に管理されている
	単独で可能	自立	やる気がない	福祉的就労は可能、ステップアップしていくという考えがない	母親にお金を無心して飲食に使う
2237	びっこを引くように歩く	自立	兄、ヘルパーと共に本人が一部行う	-	-
	可能	自立	やったことがないため出来ないが、やりたい気持ちは有る	おそらく不可	-
2238	単独で可能	自立	母親と共にいる	自己流に就職活動をしている	-
	単独で可能	自立	声掛け必要	仕事内容と環境が整えば可能	-



表57 分析項目別全事例一覧表(生活機能・参加 上段:実行状況(している) 下段:能力(できる))

IDNo.	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
2133	不可	気ままな生活を送り、通う意思はあまりないが利用は可能	飲食屋で若い女性と過ごすこと 毎晩出かけることができる	近所からは自宅の状態など心配の声がある 本人自発的には行えない	飲食店にお金を費やしている
2134	過去に就労経験あり、現在は不可	介護保険デイサービス 楽しみとして安定して通うことが出来ている	カラオケ(喫茶店の店主と共にカラオケボックスに行く) 口には出さないがやりたい事がある	不明	-
2135	支援があれば可能	就労移行支援 不安定さはあるが可能	友人とカラオケに行く 友人とカラオケに行く	民間支援団体の活動に参加 不明	不明
2136	養護学校小学部3年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時、移動支援利用	ゲーム	-	-
2136	養護学校小学部3年生	それぞれに適応している	常におこなっている	特別な配慮があれば可	-
2137	経験なく不明	通所等の利用意欲は不明だが、利用は可能	広告のチラシを眺める 不明	不明	高校卒業後は自宅で過ごすのみ 単独外出はするが、大きな問題行動はない
2138	未就学	児童デイサービス	不明	不明	-
2138	可	可	不可	不明	-
2139	養護学校は不登校 途中からいく事が出来なくなった	- 加齢系の事業所の利用など可能と思われる	お城を見ること、ゲームや音楽 自発的に行える	不明	不明
2140	不可	知的障害者通所授産施設	不明	不可	-
2141	不定期で求職活動中 判断方をそれほど必要としない単純反復作業であれば可能。	作業工賃が安いことを理由に利用していない。	車・バイク関連のこと 家計の状況を把握し適切に趣味を楽しむことができる。	プロテスタント教会の信者と交流あり 必要あれば、牧師や信者に悩みを相談することができる。	-
2142	就労していない 不明	生活介護(2カ月～半年に1回程度利用) お金がなく、母が一人にしないでと言うため足が遠のいている	不明	不明	-
2143	過去にはヘルパーを行っていたこともあるが現在は困難	-	不明	不明	-
2144	養護学校小学部4年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時、移動支援利用	ゲーム	なし	-
2144	養護学校小学部4年生	それぞれ適応している	常に行っている	個別の配慮があれば可	-
2145	未就学	肢体訓練施設、短期入所	不明	不明	-
2145	未就学	母の都合で、利用の仕方は不定期、不適切	不明	不明	-
2146	養護学校小学部6年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時、移動支援利用	-	-	-
2146	養護学校小学部6年生	それぞれで、時々混乱することがある	-	特別な配慮があれば可	-
2147	一般就労(障害者枠) 勤務は問題なくできている	通勤寮 問題なく出来ている	ゲームセンター、携帯サイト 適切には出来ない	不明	-
2201	過去にも経験なく、おそらく不可	知的通所授産、短期入所 通いなれたところに安定して通える	喫茶店へ行く 単身で可能	不明	不明
2202	不可	知的通所授産、介護保険のデイサービス 退院後の身体状況によるため利用可能か不明	不明	不明	-
2203	未就学	なし	不明	不明	不明
2203	未就学	不明	不明	不明	不明
2204	支援を受ければ可能	就労系サービスの利用は可能	テレビ ゲーム じっとしていることが嫌い	不明	友人らと万引きするなど非行あり 自発的というよりは友人らの影響あり
2205	養護学校高等部3年生	児童養護施設入所	サッカー	不明	-
2205	養護学校高等部3年生	可	可	不明	-
2206	不可	知的通所更生施設、短期入所 利用は安定して可能	不明	なし	-
2207	養護学校高等部1年生 安定して通学できる	- 好まない	不明 支援があれば可	隣人男性が親代わりの交流 本人は慕っている	本人活動「なごみの会」に参加 誘われると参加
2208	不明 以前にいとこの会社で働いた経験はある	- 利用の意思はあまりない	テレビ 意欲的には行えない	なし 近隣住民との関係不良のため困難	入院中はOTに参加 参加意欲はうすい
2209	養護学校小学部6年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時、行動支援利用	ドライブ	-	-
2209	養護学校小学部6年生	それぞれで、混乱している	常に求める	-	-
2210	養護学校高等部3年生 登校は問題なく出来ている	児童養護施設入所 トラブルなく生活できている	携帯ゲーム 長時間行うなど適切にはできない	不明	-
2211	現在は無職 48歳まで就労していた	なし 本人の希望があれば可能	散歩 テレビ 不明	地域のゴミ当番は行っている 不明	-
2212	-	生活介護事業所	不明	不可	-
2212	-	可	不明	不可	-
2213	作業所の通所経験あり	-	買物 必要なものでなく欲しい物を購入	-	不明

表57 分析項目別全事例一覧表(生活機能・参加 上段:実行状況(している) 下段:能力(できる))

2214	養護学校卒業後入院	短期入所	DVD鑑賞	-	不明
			DVD鑑賞	-	不明
2215	-	-	喫茶店に行く	不明	-
	不明	可	体調が良ければ可	不明	-
2216	-	-	不明	町内の行事には参加	-
	不明	利用経験あるが2ヶ月で中止	可	鑑賞する行事は参加できる	-
2217	仕事したいが見つからない	-	不明	不明	-
	養田の下請け・老健など仕事につくが長続きしない	支援があれば可	不明	不明	-
2218	就労していない。	一般就労を目指しH22年4月からなごや職業訓練校に通っているが、5月中旬から通えない日が多くなっている	アイドルのCD・DVD鑑賞。化粧	参加していない	-
	就労経験なし。現状では就労不可能	毎日通う事ができていない。	自発的に楽しみを見つけられるが、家庭の事情で本人の意思で実行できない。	人の目が気になりにできない。	-
2219	母と同じ職場で一般就労をしていた経験あり	就労継続支援事業	テレビ鑑賞	不明	不明
	支援があれば可能	就労継続支援事業継続	テレビ鑑賞	興味のある地域活動に参加することは可能	不明
2220	なし	福祉サービス事業所にボランティアとして参加	子どもの世話	不明	専門学校卒業後は自宅で過ごすのみ
	就労は経験なく不明	定期的に安定して通うことが出来る	保育士になりたいと希望を話すこともある	不明	不明
2221	していない	知的通所授産	音楽鑑賞	-	-
	不可	不明	不明	不明	-
2222	過去就労していたようだが現在は不明	-	不明	近隣との交流あり	-
	おそらく不可	意欲なく集団場面への適応も不可	不明	近隣との交流あり	-
2223	知的障害児通園施設年少	休日に児童デイサービス利用	-	なし	-
	知的障害児通園施設年少	適応している	-	特別な配慮があれば可	-
2224	-	地域活動支援センター	電車を見ること、乗ること	-	-
	軽作業等は可能だが、就労は困難	支援があれば定期的に利用可能	可	-	-
2225	-	生活介護事業所	休日には家電ショップでカタログ集め	-	事業所の行事などに参加している
	不明	生活介護事業所利用継続	外出支援でヘルパーと買い物	不明	自分の気に入ったものに対して興味を示す
2226	養護学校高等部3年	就労移行支援	競馬のゲーム	不明	-
	養護学校高等部3年	可能	可能	不明	-
2227	職業訓練校卒業後、市内の企業に就職	-	買い物 音楽	不明	友人と買い物などを楽しむことができる
	卒業後9ヶ月就労している	職業訓練校卒業	買い物 音楽	不明	不明
2228	父親と同会社に在籍。休職中	-	不明	不明	-
	感情不安定のため困難	不明	不明	不明	-
2229	養護学校高等部3年	-	テレビ	むぎの会で活動	不明
	養護学校高等部3年	-	テレビ	不明	不明
2230	-	-	手芸(手順の具体的な説明が必要)	-	-
	不明	-	手芸(外来作業療法で実施)	-	-
2231	養護学校高等部3年生	-	ゲーム 自転車外出	うさぎのパン屋さんで活動	不明
	養護学校高等部3年生	-	休日ば一人で遠方まで外出している	不明	不明
2232	養護学校高等部3年	日中一時支援	電車に乗って外出し、キオスクで大量に菓子類を購入	うさぎのパン屋さんに所属	買い物方法の修正のため外出支援を利用
	養護学校高等部3年生	-	電車に乗って外出し、キオスクで大量に菓子類を購入	不明	不明
2233	養護学校高等部3年	日中一時支援	DVD、電車をみる	てのひらの会	十分な事前準備により外出したり、活動に参加している
	養護学校高等部3年	短期入所を1週間経験あり	DVD、電車をみる	不明	不明
2234	養護学校高等部3年生	日中一時支援	DS・太鼓	てのひらの会で活動	不明
	養護学校高等部3年生	卒業後就労系事業所を希望	自発的に楽しみを見つけることは困難	不明	不明
2235	していない	-	ラジオ、テレビ、雑誌	不明	-
	15歳の時、紡績会社の勤務経験あり	-	実施出来ている	不明	-
2236	一般就労目指し就職活動中	-	食品の買物、喫茶店	-	-
	16歳の時、ガソリンスタンドでのバイト経験あり	-	お金があれば飲食代に使う	能力は有るが、本人にやる気がない	-
2237	-	-	カラオケ	-	-
	おそらく不可	-	カラオケ	-	-
2238	自己流に就職活動をしている	-	不明	不明	-
	高卒後、洋服の販売・接客の経験あり	-	不明	不明	-

表58 分析項目別全事例一覧表(背景因子(環境因子:物的環境))

IDNo.	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他特筆すべき特記事項
2133	-	-	-	一戸建て	自宅はごみが散乱
2134	-	杖や車椅子は拒否	-	集合住宅(賃貸)	住宅は老朽化している
2135	-	-	-	集合住宅(賃貸)	-
2136	-	-	スケジュール表	賃貸、集合住宅	-
2137	絵カード	-	-	不明	不明
2138	-	-	-	賃貸住宅	-
2139	-	-	-	一戸建て(賃貸)	自宅はバリアフリーではない
2140	-	-	-	一戸建て	-
2141	-	-	-	持家、一戸建て、改装して数年。	-
2142	不明	不明	不明	賃貸住宅	不明
2143	-	-	-	賃貸住宅	-
2144	スケジュール表	コミュニケーションツール	-	持ち家、一戸建て	-
2145	車いす	歩行器、短下肢装具	-	集合住宅(賃貸アパート)	-
2146	視覚支援ツール	-	スケジュール表	持ち家、一戸建て	-
2147	-	-	-	現在は通勤寮	通勤寮から勤務先まで1時間以上かかる
2201	-	-	-	一戸建て(両親の持ち家)	-
2202	車いす	不明	不明	一戸建て(持ち家)	不明
2203	頸管栄養、在宅酸素	不明	不明	持ち家	不明
2204	なし	なし	なし	集合住宅(賃貸)	なし
2205	-	-	-	市内に自宅あり、両親居住	自宅での生活は本人望んでいない
2206	-	-	-	一戸建て(持ち家)	-
2207	-	-	-	古い長屋	両親不在で年齢に見合う物的環境を準備する人がいない
2208	-	-	杖 歩行器	老朽化、ごみ屋敷状態	自宅以外に農地所有
2209	-	-	視覚支援ツール	賃貸、集合住宅	-
2210	-	-	-	児童養護施設入所、実家は市外で両親が居住	実家は狭く家族が生活できる環境が整っていない
2211	-	-	-	一戸建て 同敷地内に叔父夫婦が住んでいる。	老朽化により取り壊し予定
2212	シャワーチェア・バスボード 浴室の住宅改修	-	不明	一戸建て	-
2213	なし	-	-	一戸建て	不明

表58 分析項目別全事例一覧表(背景因子(環境因子:物的環境))

2214	ベッド、オムツ、車椅子、座位保持装置、吸引器	-	-	一戸建て(持ち家)	-
2215	-	-	-	賃貸住宅 シロアリが多く、大家から退去を求められている	-
2216	介護保険にて住宅改修を実施予定	-	-	市営住宅	-
2217	-	-	-	一戸建て	不明
2218	-	-	-	古い借家。猫を室内で数匹飼っている。トイレと風呂は家の外に設置。室内はほどほどに片付いている。	夏場風呂にゴキブリが出るため、一人で入浴できない時がある。
2219	-	-	-	市営住宅 母と二人で生活していたが、姉が入り込むことで問題が生じてきた	途中同居の姉より食事を取りあげられるなどの虐待を受けている
2220	-	-	-	一戸建て	近隣に親戚が居住
2221	-	-	不明	借家	-
2222	-	-	-	集合住宅(市営住宅)	-
2223	-	-	スケジュール表	賃貸、集合住宅	-
2224	-	-	-	木造アパート(父が貸主)	母親と2人で部屋にいるが片付けができない
2225	オムツ(家のトイレが使えない)	ポータブルトイレ	洋式トイレ(知的障害者対象の住宅改修)	持ち家であるがトイレ、風呂など汚れがひどい	大きな改修を要する所以外は、改善できている
2226	-	-	-	一戸建て	-
2227	-	-	-	叔母の家に同居	祖母と暮らしていたマンションはある
2228	-	-	-	一戸建て	-
2229	-	-	-	持ち家	-
2230	-	-	-	一戸建て	敷地内に兄夫婦が居住
2231	-	-	-	母が離婚調停中で、同敷地内にある両親のいる母屋で生活している	離婚調停中で実質母子家庭 母が就労して掃宅が遅い
2232	-	-	-	一戸建て(持ち家)	自宅の敷地内にパン工房あり
2233	保護帽・くつ	-	-	マンション(分譲)	マンションの3Fに住んでいるため、近隣に配慮必要
2234	-	-	-	一戸建て(持ち家)	-
2235	-	-	-	市営住宅	-
2236	-	-	-	市営住宅	-
2237	-	-	-	持ち家	軽井沢に別荘有
2238	-	-	-	持ち家	同敷地内に両親が住む

表59 分析項目別全事例一覧表(背景因子(環境因子:人的環境))

IDNo	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
2133	両親は死亡、親類は高齢などから支援は期待できない	飲食店の店員などと交流あり	民生委員らの見守りあり	福祉関係者の受け入れに拒否感はない	なし
2134	息子あり。積極的ではないが支援あり	通所先での交流あり	-	支援者との関係は良好	喫茶店の店主がごくたまにカラオケに連れて行ってくれる
2135	兄、知的障害のある妹、息子と同居。本人の気ままな過ごし方に家族は不満あり関係は不良	通所事業所での交流	不明	複数の支援者があり、関係は不安定	民間シェルターの利用者らとの交流あり
2136	両親共に精神的に不安定	学校、児童デイでの交流あり	不明	本人の支援者との関係は良好	不明
2137	母が本人の支援を全面的に行っている、弟あるが引きこもりのようで実態不明	不明	不明	支援者の受け入れは拒否なく良好	-
2138	母親も同疾患 母親の実家で月の半分を過ごす	児童デイサービスで交流	不明	複数の支援者と交流があり関係は良好	-
2139	母子家庭で、母は知的障害疑い、双子の姉も知的障害あり、父は別居だが生活不安定	不明	不明	支援者の受け入れは良好	-
2140	母親は本人と2人で過ごすことに不安。父親は週1日は自宅と過ごしている。	授産施設で他利用者と交流	不可	通所施設職員・ヘルパーの支援あり。こだわりが強い	-
2141	高齢の母親と同居。近くに兄弟夫婦が住んでいるが、本人が反発。	在職中に知り合った友人。	近所とはつかずはなれずである。	精神科病院医師、PSW、就業・生活支援センター	-
2142	母親(要介護、意欲低下)、弟(生保世帯と同居、母から娯楽費を無心する)	不明	不明	精神科訪問看護2/W	不明
2143	同居男性は身体障害あり。娘は別居で積極的ではないが関係あり	不明	不明	支援者を選び好む傾向あり、依存的	不明
2144	父親が精神的に不安定	学校、児童デイでの交流	不明	本人の支援者との関係は良好	親戚との交流あり
2145	母子家庭で母就労のため兄の養育が不十分、父の協力あり	母子通園の先輩ママ自宅へ母に連れられ夜間遊びに行く	不明	福祉サービス支援者との交流あり	-
2146	父親が単身赴任中、兄が受験生で母親以外の支援は希薄	学校、児童デイでの交流はあり	不明	本人の支援者との関係は良好	不明
2147	母高齢で疾患あり、兄弟近隣に居住。兄は後見人となっている	勤務先の友人などと交流あり	不明	支援者との関係は良好	-
2201	父は認知症、母入院中で自宅での生活が困難、兄弟の支援はあり	作業所でのほか利用者との交流	不明	福祉関係者との関係は良好	-
2202	妻就労あり、娘やその婚約者による支援が可能	通所事業所での交流等	不明	通所施設やヘルパー、医療機関職員等と交流あり	不明
2203	母親がほぼ付き切りで介護	母子通園施設に1回登園	不明	不明	不明
2204	養父、母、弟、妹(乳児)と同居、家族関係が不安定	悪友との交流あり	不明	人あたりよく、良好な関係を築くこと可能	-
2205	父DVあり(実際は不明)、母知的障害疑い、もやもや病あり	学校や施設での交流あり	不明	先生や施設職員等との関係は良好	不明
2206	母はパニック障害で外出できない。他協力的な家族はなし。	通所施設での交流等	-	通所先職員や相談支援等の交流	-
2207	幼少期に両親は家出、認知症傾向のある祖母と2人暮らし	学校等では特に親しい友人はいない様子	隣人男性が親代わりのような役割	学校や相談支援などの関係者あり	-
2208	いとこが金銭的に支援。同居女性は知的障害あり	-	近隣住民とは関係不良	支援者の受け入れは良好	-
2209	母子家庭で兄が精神的に不安定	学校、児童デイでの交流あり	隣人との折り合いが悪い	本人の支援者との関係は良好	母親の友だちの支援
2210	両親は市外に居住、母精神疾患あり。妹が同施設に入所	学校や施設ではあまり交流せずおとなしい	不明	大人の支援者との関係は好んで作ろうとする	不明
2211	同敷地内に住む叔父夫婦が金銭の管理、入浴を援助	-	挨拶をする程度の交流	民生委員が相談支援センターに連絡	叔父夫婦が高齢で今後が心配
2212	高齢の父親と2人暮らし 父親が暴力を振るうことがある	生活介護事業所で他の利用者と交流	あり	福祉関係者との関係は良好	父親の友人による支援を受けている
2213	妹が本人からの不安の電話に対応している	友達は欲しいが、相手の気持ちや状態を察する事ができない	近所の人に話しかけられるのが嫌	初対面でも拒否はない	-

表59 分析項目別全事例一覧表(背景因子(環境因子:人的環境))

2214	主に母が介護 父は不規則勤務	-	近隣に親戚が複数あるが、あまり交流はない	樫の木福祉会との関係は良好	-
2215	独居 妹・長男が東京に在住のため受けられない	買い物等を支援してもらう	不明	訪問看護師・包括支援センター	不明
2216	独居 長女が名古屋市在住	ほとんどなし	民生委員や近所の方との交流あり	支援者との関係は概ね良好	-
2217	実母からの虐待経験あり。継母との折り合い悪く父は母の見方	不明	不明	就労支援者との交流あり	不明
2218	母は特殊学級在籍歴有(手帳無)。理解力も乏しく本人に頼ることが多い。本人を心配しているが、支援が期待できない。	訓練校での友人は少ないが、父(離婚)方のいとこと仲が良い。	近隣との付き合いはない。	開拓校、就業・生活支援センターとの関係は良好、通院先は不明	不明
2219	高齢の母は本者の援助がなければ生活できない 姉から虐待を受けている	事業所内で交流	-	母のケアマネのみ家に出入りできている	-
2220	両親、妹あり。母は判断能力が不十分な面あり、親類の支援あり	通所先での交流あり	不明	支援者の受け入れは良好	-
2221	母と内縁の夫からの支援あり	-	-	施設職員、ヘルパー等との交流あり	-
2222	母と2人暮らし。母は様々な疾患抱え要介護4。2人ともクレーマー	-	近隣住民とは交流あり	支援者を選び好みし、関係者への苦情や言いがかりは絶えない。	-
2223	母親が精神的に不安定、姉が不登校	通園施設、児童デイでの交流あり	特定の近所の人とは、好意的な交流がある	本人の支援者との関係は良好	-
2224	母に知的障害あり、母の言動等が本人に大きく影響している	-	ほとんどない	不明	なし
2225	兄は障害 父は右手を負傷	-	隣人が父の弟 精神障害で入院歴あり	居宅介護事業所、日中活動事業所 の支援あり	-
2226	病識あり。本人の意向尊重。協力あり。	発作があったら迷惑になるので控えている	不明	不明	-
2227	両親とは死別 父の姉二人が協力的 祖母の在宅生活は困難	職場内での友人や上司との交流あり	-	就業生活支援センターの支援あり	-
2228	父親が全面的に支援	精神デイケアにて交流	不明	支援者の受け入れは比較的 良好	-
2229	パニックになったときは父親に暴力を振るってしまう	学校、むぎの会	不明	不明	-
2230	兄夫婦有、協力的	病棟の同室者に対して無関心	挨拶をしなくなった	病院関係者との関係良好	不明
2231	両親は別居中のため、父の援助はない 母の両親の援助あり	学校の友人とはゲームをしたりして過ごす	不明	うさぎのパン屋さんで活動	-
2232	父母、祖父母とも協力的	うさぎのパンやさん内での交流	不明	小学校時代より樫の木福祉会と交流し関係は良好	-
2233	兄弟はなし 母は精神科に通院している	てのひらの会に所属	近隣との交流はあまりない	小学校時代より樫の木福祉会と交流し関係は良好	-
2234	兄弟仲も良く、家族に大切にされている	てのひらの会の活動に参加している	母の姉妹が協力的	小学校時代よりかしの木の里を利用して関係は良好	-
2235	弟。体調を気に掛けてくれる。入院時等の手続き等協力的。	デイケア内に友人あり	不明	支援者に対して好意的	不明
2236	母:要支援1。本人が可愛くすぐにお金を与えてしまう。	-	-	ヘルパーに依存的	-
2237	兄、兄にとって重たく行為があると本人に手を上げる	デイケアメンバーとの関係、特に問題なし	-	ヘルパーとデイケアスタッフ、関係良好	-
2238	父(足が不自由。)母→育児、金銭的援助、長男高3、長女療育C/養護学校高1、次女小5	不明	不明	不明	元夫からの養育費9万円

表60 分析項目別全事例一覧表(背景因子(環境因子:社会環境))

IDNo	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私サービス	あるが利用していない公私サービス	あったら利用したい制度・サービス
2133	療育A、障害年金	成年後見	配食サービス	-	-
2134	療育B、生活保護	-	介護保険デイサービス、訪問介護	障害福祉サービス(基準該当生活介護、居宅介護)	不明
2135	療育B、障害年金	子育て支援	就労移行支援	居宅介護	-
2136	療育B	-	児童デイ、日中一時、移動支援利用、言語訓練	-	-
2137	療育A、身体4級、障害基礎年金2級	-	現在精神科入院中	障害福祉サービス	-
2138	身体1級、療育A	-	児童デイサービス 居宅介護支援	-	-
2139	身体2級、療育A(中度)、生活保護	-	-	障害福祉サービス	-
2140	療育A、障害基礎年金1級	-	知的通所授産施設 身体介護 行動援護 日中一時支援 短期入所	-	不明
2141	精神2級 障害厚生年金2級	就労移行支援事業所、地域活動支援事業所、精神科デイケア	-	通所系サービス、作業工賃が安いという理由	ある程度の金額が支給できる職業訓練
2142	療育C、精神2級、生活保護	不明	生活介護、精神科訪問看護、居宅介護	不明	不明
2143	身体3級	-	居宅介護	-	-
2144	療育A	-	児童デイ、移動支援	-	-
2145	身体2級、療育A	-	短期入所、肢体訓練施設	-	-
2146	療育A	-	児童デイ、日中一時、移動支援	-	-
2147	療育C、成年後見制度	-	通勤寮	-	-
2201	療育A、障害基礎年金2級	-	知的通所授産、短期入所	ケアホーム	通いながら施設に通いながら利用できる居住の場
2202	身体1級、療育A(中度)、障害年金	-	知的通所授産、介護保険デイサービス、居宅介護、短期入所	不明	不明
2203	身体1級、療育A	不明	訪問看護、訪問リハビリ、母子通園施設	短期入所、児童デイサービス(体調が不安定)	不明
2204	療育C	-	精神科病院に入院中	就労支援	-
2205	療育C、児童養護施設	-	-	-	不明
2206	療育A、障害基礎年金1級	-	知的通所更生施設、短期入所、移動支援、福祉有償運送	-	-
2207	療育C、身体5級、生活保護	-	-	-	-
2208	成年後見人	精神保健福祉手帳	-	-	ごみ屋敷の片付け
2209	療育A	-	児童デイ、日中一時、行動援護利用	-	-
2210	療育C	-	児童養護施設入所中	-	-
2211	身体3級	療育手帳	-	居宅介護 居住支援 就労支援	-
2212	身体3級、療育A	不明	生活介護・身体介護・家事援助・短期入所	不明	不明
2213	療育B、障害年金	-	居宅介護	短期入所(調子を崩し、体験が出来なかった)、ケアホーム	不明

表60 分析項目別全事例一覧表(背景因子(環境因子:社会環境))

2214	身体1級、療育A	日中活動系事業所 居宅介護	訪問看護 移動入浴	-	医療的ケアのできる居宅介護
2215	精神2級 生活保護	-	訪問看護1回/週 24時間対応の電話相談	介護保険非該当と認定	不明
2216	身体1級 基礎年金2級 生活保護	-	通院介助 介護予防訪問介護	-	-
2217	療育C	就労継続支援	-	-	就労継続支援
2218	療育C	今すぐではないが将来グループホーム利用本人希望有	就業・生活支援センター、職業開拓校	日常生活自立支援事業(母が金銭に関する相談をしない為)	-
2219	療育A	-	-	-	障害者虐待に対応できる制度
2220	療育C	-	-	障害福祉サービス(就労系)	-
2221	療育C	-	知的通所授産、短期入所、異動支援、相談支援	不明	不明
2222	精神2級、生活保護	-	居宅介護 福祉タクシー	-	-
2223	療育A	-	児童デイサービス、民間の言語訓練	-	-
2224	療育B、障害年金	-	居宅介護、移動支援、地域活動支援センター	-	ケアホーム
2225	療育A	-	居宅介護 生活介護 日中一時支援 相談支援	短期入所	トイレ、風呂の住宅改修
2226	療育C	移動支援	就労移行支援	-	不明
2227	療育C	-	-	GH/CH	-
2228	身体5級、精神3級 障害厚生年金3級	不明	精神デイケア	不明	不明
2229	療育A	-	-	-	-
2230	精神2級、障害年金2級	-	外来作業療法	居宅介護、生活介護	-
2231	療育B	-	-	-	-
2232	療育A	-	日中一時支援 移動支援	-	-
2233	身体3級、療育A	-	日中一時支援 居宅介護	放課後支援 利用できるところが少ない	-
2234	療育A	-	日中一時支援	-	-
2235	精神2級、障害基礎年金2級、生活保護	-	配食サービス、居宅介護、訪問看護、栄養指導、精神科デイケア	-	夕方の配食サービス
2236	精神2級、生活保護	-	居宅介護、配食サービス	-	-
2237	精神2級、障害年金	-	居宅介護、精神科デイケア、訪問看護、	短期入所	-
2238	療育C	-	-	-	-



表61 分析項目別全事例一覧表(背景因子(個人因子))

ID No.	生活観(実現したい生活)	価値観(大事にしていること)	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
2133	飲食店の従業員の子供と結婚したい	気ままな生活	預金があるため浪費が激しい	預金があるため浪費が激しい	-
2134	今のままの暮らし	不明	夜タバコあり	不明	-
2135	子どもと仲良く暮らしたい 気ままな生活をしたい	不明	子どもや家族のことよりも自分の楽しみを優先してしまう	子どもに避けられている 兄妹と仲が悪い	過去にホームレスの人と一緒に路上生活をしながら暮らした時期がある
2136	安心できる生活	-	四六時中ゲームばかりしている	四六時中ゲームばかりしている	-
2137	不明	不明	全裸で自慰行為をするが誘導により衣類の着脱が可能	両親の関わりが希薄	-
2138	不明	不明	-	-	-
2139	卒業後は福祉サービスを利用して生活していく	不明	不登校の期間が長く外に出るのがおっくうになっている	母子家庭 両親ともに知的障害があり、十分な配慮は困難	-
2140	不明	不明	水を触れること、服装にごだわりがある。服をわざと濡らす	母親に対する他害や物を壊すなどの行動	-
2141	親兄弟と衝突せず、職に就き経済的に安定した生活をしたい。	警察沙汰にならないようにする。無理して就職を急がない。	親兄弟の言動、行為に過剰反応する。	どこにも所属しておらず、在宅生活を送っている。	-
2142	不明	不明	不明	不明	不明
2143	不明	不明	不明	-	-
2144	穏やかな生活	不明	お風呂に長く入る	生活習慣が不安定	-
2145	母とともに安定した生活	不明	不明	母親の養育不十分で生活リズムの乱れがある	-
2146	安定した生活	不明	人を押ししてしまう	人を押ししてしまう	-
2147	住み慣れた町で自立して生活したい	不明	不明	金銭管理ができない	-
2201	通いなれた施設に通って生活したい	不明	不明	今後の生活の場所が決まらない	-
2202	自宅で家族とともに過ごすこと	不明	不明	妻が仕事のため深夜～早朝にかけ不在の間の介護	-
2203	不明	不明	不明	退院して1週間もせず再入院する。医療依存度が高い	不明
2204	仕事をして収入を得たい	不明	幼児が好きでつきまとってしまうことがある	幼児期の虐待の影響 周囲の悪友からの影響	-
2205	就職してグループホームで生活したい	不明	-	不明	-
2206	不明	変化のない生活パターン	手指のガーゼ交換	作業所通所に多額な実費負担	-
2207	施設には入りたくない	隣人宅との関わり	おおよそ隣人宅で過ごす	祖母亡き後の権利保護	未成年後見の検討が必要
2208	自宅での生活	同居の女性と生活していく	同じ場所からほとんど動かずに生活	自宅がごみ屋敷となっている	-
2209	安定した生活	不明	自宅では常に全裸で過ごす	自宅で全裸で過ごすこと	-
2210	両親との同居または両親の近くで生活したい	不明	-	不明	-
2211	叔父夫婦と離れて、支援を受けながら生活していきたい	不明	排泄はバケツの中にしていた	健康状態の把握ができていない	-
2212	自宅で生活し続けたい	不明	不明	父親が飲酒した際の本人への暴力行為	-
2213	自宅に帰る事	不明	不安なことがあると妹に電話する	不安や不満の解消方法の獲得	-

表61 分析項目別全事例一覧表(背景因子(個人因子))

2214	自宅で家族と生活していきたい	不明	習慣、痰吸引、呼吸管理などの医療的ケアの頻度が高い	家族以外の人から十分な医療的ケアを受けられない	-
2215	施設入所がしたい	不明	不明	単身で生活することの不安が大きい	-
2216	在宅での安定した生活	不明	-	支援者に対して依存적である	-
2217	グループホームで暮らしたい	自立したい	飲酒・生活の乱れあり	盗癖・盗撮・ちかん	-
2218	開拓校を卒業し、就職したい。	不明	髪の毛むしり、吐き気や失禁。メンタルクリニック以外に通院する回数が多い	本人のモチベーションアップを目的とし、本人・母親・開拓校・就業・生活支援センターで本人が小遣いの管理をする約束をしたが母親から小遣いが買えず実現できていない。	母親を独占したいと求めるも、母親の奮闘や金銭管理に不満がありストレスの要因となる。
2219	日中は通所サービスを利用しながら母と生活したい	母と暮らすこと	不明	姉からの虐待に対処できない	-
2220	いまのまま母と生活していきたい	不明	働かなくても財産で生活していけると考えている	働く意欲が低い	-
2221	安定した生活	お金	不明	標りの送迎バスに乗ることができない(時間が守れない)ため、自力通所の手段の検討	偏食あり
2222	不明	母親が決めた生活習慣	全てのことに独自のやり方がある	母親の介護における負担	-
2223	安心出来る生活	不明	-	姉が不登校 母親が精神的に不安定	-
2224	寮生活	不明	不明	母親との喧嘩	-
2225	今のままの生活を継続すること	一定のリズムの中での生活 休日の過ごし方	パターン化された生活	父が高齢で親類の援助も困難 成年後見等は準備していない	家の借金はすべて返済
2226	自立したい	不明	不明	てんかん発作のコントロール	-
2227	将来は一人で生活してみたい	あまり人に干渉されたくない	不明	金銭感覚が乏しく、数ヶ月で数10万使ってしまった	-
2228	生活訓練を受けたあと就労したい	不明	タバコ	対人関係がうまくいかない	-
2229	卒業後は福祉サービスを利用する	不明	パニックになると父親に暴力を振るう	肥満傾向	-
2230	不明	不明	ラジオ鑑賞を好む	不明	-
2231	卒業後は福祉サービスを利用して生活する	不明	休日には遠方まで自転車で出かけてしまう	父親をイメージさせる男性は苦手	携帯電話を持ち、メール交換ができるようになった
2232	卒業後は福祉サービスを利用して生活したい	不明	外出すると大量に買い物をしてしまう	食に対する執着強く肥満傾向	-
2233	卒業後は福祉サービスを利用して生活したい	不明	思い通りにならないとパニックになる	母が精神的に不安定になることがある	-
2234	卒業後は就労系事業所に通所したい	不明	指示されたことは何でも行ってしまい、ストレスをためやすい	家族の不在時に火や包丁を使ってしまう	-
2235	資格を取って働きたい	別居している息子の成長を見届ける事	たくさん食事を取り、戻してしまう	-	-
2236	一般就労をして、月10万円は稼ぎたい。	不明	不明	お金を計画的に使う事	家事をやる気持ちがなく、母やヘルパーにやってもらって当然と思っている。
2237	不明	不明	不明	兄から時々暴力があるため離れたい気持ちと一緒に居たい気持ちがある	-
2238	働いて子どもに小遣いをあげたい	不明	不明	不明	-

表62 分析項目別全事例一覧表(会議参加者(参加状況))

IDNo.	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
2133	拒否	-	民生委員、成年後見人候補者	-	-	知的通所授産(2)、相談支援(3)、福祉課
2134	参加	-	-	-	-	介護保険デイスサービス、ケアマネージャー、基準該当生活介護、居宅介護、相談支援、福祉課(生活保護、障害)
2135	参加	兄	民間シェルター管理者	-	-	就労移行支援、障害者就業・生活支援センター、相談支援、福祉課
2136	-	母	-	-	-	養護学校、保育園、児童デイスサービス事業所、日中一時支援事業所、居宅介護事業所、相談支援事業所、療育サポートプラザ、子育て支援課、福祉課
2137	-	母	-	精神科PSW	-	知的通所授産、知的入所更生、短期入所、相談支援(3)、福祉課
2138	-	-	-	MSW・訪問看護Ns	保健所	居宅介護事業所・児童デイ・子育て支援課・福祉課・相談支援
2139	参加	母、姉	-	-	-	居宅介護、就労継続B、就業・生活支援センター、養護学校、相談支援(3)、福祉課(生活保護、障害)
2140	-	母	-	-	-	知的通所授産、短期入所・日中一時支援事業所(4)、相談支援(3)、福祉課
2141	-	母親	-	精神科PSW	-	包括支援センター、就業・生活支援センター、高年福祉課、福祉課
2142	-	-	-	精神科訪問看護PSW	-	日常生活自立支援事業、居宅介護支援事業所、ケアマネ、包括支援、福祉課障害G、生保G、相談支援
2143	-	-	-	精神科PSW	保健所	居宅介護(2)、社協、相談支援(2)、福祉課
2144	-	母	-	-	-	養護学校、児童デイスサービス、居宅介護、療育サポートプラザ、福祉課
2145	-	-	-	肢体訓練施設Ns	-	短期入所、母子通園、肢体訓練施設、児童相談センター、相談支援(2)、子育て支援課、福祉課
2146	-	母	-	-	-	養護学校、児童サービス事業所、日中一時支援事業所、居宅介護事業所、療育サポートプラザ、福祉課
2147	参加	母、兄	勤務先の上司	-	-	通勤寮、就業・生活支援センター、相談支援、福祉課
2201	参加	妹、弟	-	-	-	知的通所授産、短期入所、相談支援(4)、福祉課
2202	-	妻、娘の婚約者	-	医療機関MSW	-	知的通所授産、介護保険デイスサービス、居宅介護、福祉用具事業者、相談支援、福祉課
2203	-	母親	-	訪問看護、訪問リハビリ、病院SW	保健センター	母子通園施設、相談支援(4)、福祉課
2204	参加(後半)	母、妹	-	精神科医師、PSW	-	就労移行支援、就労・生活支援センター、相談支援、児童相談センター、相談支援、福祉課
2205	-	-	-	-	-	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、ケアホーム事業所、相談支援(5)、福祉課
2206	-	-	義理の祖母	-	保健所精神保健福祉相談員	知的通所更生施設、短期入所(2)、社協(日常生活自立支援事業)、相談支援(4)、福祉課
2207	-	-	-	-	-	養護学校、児童相談センター、包括支援センター、居宅介護、相談支援、高年福祉課、生活福祉課、福祉課
2208	参加	同居女性、いとこ	成年後見人、民生委員	精神科PSW、Ns、OT、デイケア担当者	-	居宅介護、相談支援、福祉課
2209	-	母	-	-	-	養護学校、児童デイスサービス事業所、日中一時支援事業所、居宅介護事業所、療育サポートプラザ
2210	-	両親	-	-	-	児童擁護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課
2211	参加	いとこ	-	医療機関SW	-	民生委員 社会福祉協議会 GH事業所 福祉課 相談支援
2212	-	父親	父親の友人	-	-	地域包括支援センター・ケアマネージャー・居宅介護・相談支援
2213	-	妹	-	精神科Dr.PSW、精神科デイケア	-	生活介護、ケアホーム、相談支援、福祉課

表62 分析項目別全事例一覧表(会議参加者(参加状況))

2214	-	母	-	医療機関SW 担当看護師 訪問看護	-	重心通園事業所 訪問入浴事業者 福祉課 相談支援
2215	-	-	-	MSW	-	包括支援センター・相談支援
2216	あり	-	-	-	-	訪問介護・居宅介護・福祉用具業者・包括支援センター・相談支援
2217	参加	父親	-	-	-	相談支援、就業・生活支援
2218	不参加	不参加	-	精神科PSW	-	職業開拓校、就業・生活支援センター
2219	-	-	-	-	-	ケアマネ 生活介護事業所 福祉課 相談支援
2220	参加	母	-	-	-	就労継続B・生活介護事業所、就労移行支援、就業・生活支援センター、相談支援、福祉課
2221	-	母	-	-	-	知的通所授産、相談支援、県立コロン、養護学校、市福祉課
2222	-	-	-	-	-	居宅介護(2)、訪問介護、母のケアマネ、高年福祉課、相談支援、福祉課
2223	-	父、母	フリースクール校長先生	臨床心理士2名	-	小学校、通園施設、相談支援事業所、療育サポートプラザ、福祉課
2224	参加	父	-	精神科PSW	-	地域活動支援センター、居宅介護(3)、共同生活介護、相談支援、県地域移行推進課、市福祉課
2225	参加なし	父	-	-	-	居宅介護事業所 生活介護事業所 GH事業所 福祉課 相談支援
2226	参加	父母	養護学校担任教諭	-	-	相談支援センター4箇所 就業・生活支援センター 就労移行支援事業所 福祉課
2227	参加	叔母(2名)	就労先企業の代表	-	-	社会福祉協議会 GH事業所 就業生活支援センター 相談支援 市福祉課
2228	-	-	-	-	-	精神支援機関(2)相談支援・福祉課
2229	参加	母	-	-	-	養護学校担任 就労継続支援 生活介護事業所 就労移行支援 相談支援
2230	参加	兄夫婦	-	精神科病院PSW、病棟看護師	-	相談支援
2231	参加	母	-	-	-	養護学校担任 就労移行支援 就労継続支援 相談支援
2232	参加	母	-	-	-	生活介護、就労継続支援、居宅介護、相談支援
2233	-	母	-	-	-	養護学校担任、居宅介護事業所、生活介護事業所、日中一時支援、相談支援
2234	参加	母	-	-	-	養護学校担任、就労移行支援、就労継続支援、相談支援
2235	参加	-	-	精神科デイケアPSW	-	相談支援
2236	-	-	-	精神科病院PSW	-	居宅介護事業所、社協、地域包括支援、生活福祉課、高年福祉課、相談支援
2237	-	兄	-	精神科デイケアPSW	-	居宅介護事業所、相談支援
2238	参加	母親	-	-	-	就業・生活支援センター、相談支援

表63 分析項目別全事例一覧表(会議の検討事項・結果)

IDNo.	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望
2133	亡き親の残した預金が多額にあり、本人はそのお金を飲食店等に浪費。飲食店に騙されている可能性もあり、適切な金銭管理は自己にて困難であることから、成年後見制度の活用と、日常生活(自宅の掃除など)の支援について検討	飲食店を特定し、不適切な金銭浪費をいじめつつ、成年後見制度の市長申し立てを行う。日常生活の立て直しのためにヘルパーの利用や、通所の促しを相談支援で行っていく
2134	生活保護を受けていることから、介護保険の利用ではなく障害福祉サービスへと利用が変更となる。これまで通っていた介護保険のデイサービスは、障害福祉サービスに対応できないことから、新たな事業所の利用となるため、本人に負担の少ない移行について検討	介護保険から障害福祉サービスへの移行に伴い、ケースの引継ぎが行われた。本人の本当の希望には沿わない結果であり、制度上やむを得ない形となった。介護保険と障害福祉サービスの連続性の確保が課題となる。
2135	自宅では居場所がなく通いにくいことや、子との関係もうまくいかず、民間シェルターに入れてほしいという相談があり、兄から暴力があると相談があった。事実関係を整理し、本人、家族が安定して生活していけるよう、支援方針を検討	家族は本人の行動に信頼がおけないため、厳しく接するが見守る姿勢でいる。本人に家庭での居場所が作れるよう、役割を持たせ、信頼している民間シェルター管理者の協力も考え、就労を目指し、生活改善をはかる
2136	兄弟に囲われている様々な機関に集まっていたが、家庭の中でおこなわれていた、父親からのいきすぎた行為等に対する対策や、それを踏まえた上での支援のあり方を確認していきたい。また兄弟に関する支援で情報共有し、さらにネットワークを作ることによって母親の安心感を深めてもらう機会とすること	兄弟の生活実態に合わせた計画的な社会資源の活用と、チャイプを中心とした母親の精神的なフォローをおこなっている。しかし、父親への病院受診の話は進んでいない。
2137	知的障害、聴覚障害、精神疾患と障害が重複しており、精神科病院に入院中。入院生活は本人に適切ではなく、退院を希望しているが、母の不安が強い。本人の支援と母の不安軽減のために、退院後の生活について支援方針を検討	障害が重複しているが自閉症と考えられる行動もあり、本人の障害特性にそった支援を提供できるよう、自宅ではヘルパーを利用し、日中は生活介護を利用しながら、地域での生活を支えていく
2138	医療機関や福祉サービス事業所など多くの関係者が関わっている家庭。母親自身も本人と同疾患、知的にやや遅れがあり各関係機関との調整が困難なため、事業所間で情報交換を行いたい。	本人の支援については福祉サービスを利用することにより安定してきているが、母親が精神的に不安定になっていること、父親が失業中であることなど、家庭基盤が脆弱である。母親の精神面での支援は保健所、父親の就労支援、自己破壊、母子のヘルパー調整は相談支援で担当する。
2139	養護学校高等部在学中だが不登校、先生のフォローを受けているが、卒業に伴い支援も出来なくなる。家庭には両親、姉ともにそれぞれ障害や問題を抱えており、家族も支援が必要であるが、本人の今後の支援や家族への支援体制などを関係者で検討	本人は日中事業所へ通えるよう希望を元に支援するため見学等を進めていき、好きな活動が行えるよう、障害福祉サービスで移動支援などを利用する。姉については就労支援を関係者で行い、父は生活費に困窮し生活不安定な様子であるが実態がつかめないため、関係者で保護で次期生活保護の相談へつなぐ。
2140	自閉症によりこだわりが多く、別居していた弟が同居するようになり自宅での生活が不安定になっている。母親に対する暴力や物を破壊させるなどの行動が多くなってきている。安定した生活を送るための方法や、母親の負担軽減のために福祉サービス利用を検討したい。	起床後から授産施設の送迎までの時間にヘルパーを利用し、母親と2人きりになる時間を減少させる。起床から更衣までの行動をパターン化、自宅内の気になる物を隠す、撤去するなどして本人のこだわりを防ぐ。しかし、自宅にて母親と2人過ごしている際に不安定となり、暴力行為につながっている。
2141	障害年金裁定請求中で失業手当の受給期間も終わりに近づき、本人の経済的な不安感が強かった。毎日のように深夜まで母親を包丁や精神科の薬を多量に持ち出し死んでやると断言していた。兄も取っ組み合いになり警察が介入する事態となっていた。概要を把握し、この世帯の支援方針を定め必要時に即対応できるようにすることを目的とした。	本人を就労系の障害福祉サービスに繋げることに母親の同意が得られたが、工賃の低さに母親の疑問が湧き、利用に乗り気になっていない本人も考え直し、在宅生活を続けていく。障害年金が受給できるようになり精神的にもかなり安定しているも親兄弟との関係は改善されていない。精神科病院、就業・生活支援センターで本人の日常生活上の相談に乗り、本人に呼びかけ就労したいという意欲が湧いてきた時に就労支援することとした。
2142	母と本人の生活保護世帯に、失業中の弟が転がり込んで同居し二人分の保護費で生活している。生活費としてだけでなく、保護費の一部を母が遊園費として弟に渡ししてしまうので、困っている本人から相談があった。本人と母を経済的に守っていくため、今後日常生活自立支援事業の利用を検討していきたいが、本人の支援をする中で母が孤立しないように母の支援者にも状況を理解してもらうために関係者のみのケア会議を開催した。	弟にお金を渡ししてしまうのは、母、しかし、お金が本人に全部入ることで本人が弟の精神的にならないうようにしたい。保護費が振り込まれるのはためであるので、本人が窓口に取り次に来たら支給するということになる。(要ヘルパー付き預り)一部は母に渡し、その中から弟がせびりにきりこみは渡せるようにしておこうとする。保護費より、弟に生活保護のお金を渡し、その後は母に渡し、見直し継続し続けるのは難しいと、母に伝えるも、本人にも断絶を促す。
2143	同居男性との2人暮らしであり、ヘルパー利用して生活しているが、同居男性に対するヘルパー支援の内容に無理な行為を要求したり、ヘルパーの選り好みがあるなどで対応が困難。精神的に不安定で、さまざまな相談機関に相談していき、関係者が集まりお互い理解するため、支援者が情報共有し対応を統一する	相談先として社協を担当として、本人の支援者が複数あることで本人や支援者が混乱しないように調整を行う。同居男性とは共依存的な関係になっており、精神的に不安定になり問題行動を起こすため、枠組みをもって関係者で対応する。
2144	現在のご本人さんの暮らしを支えるために、複数の事業所が関わっている。毎日の暮らしが穏やかに安定して過ごせるよう、障害特性に合わせた支援の方向性の確認を行っていく。また家族状況にあわせた支援を適切に提供できるようネットワークの構築を深めたい	ご本人さんの障害特性を深めることはできたが、その特性に合わせた配慮があまりされていない。今後はポイント絞って具体的な支援方法を家族を含めた関係者一同で話し合っていく必要がある。
2145	離婚してから母が収入を得るために就労し、本児を短期入所し預けたままであったり養育が不十分で生活も乱れていたが、本児の歩行獲得のために肢体不自由訓練施設へ入所することとなった。施設入所により母の生活改善され、退所後は安定した生活が送れるようになることを目的に、支援者で入所前に支援方針の確認、共有を行う	施設入所までの間、母子を支える相談体制を整えておき、施設入所となってから、母子関係が途切れないよう関係者で支援。退所前には母を支えての関係会議を行い、適切な生活が送れるよう支援する
2146	前回の個別支援会議開催以降の各機関での様子の確認と、問題とされている行動の分析。また、4月から中学部に進学するにあたり、従来の児童デイサービスの利用形態を変えていく必要がある。その確認及びプランの検討。	各機関でのパニックに時の対応の統一化。それに伴って、全体的に生活が安定してきたこと。
2147	就労し収入もあるが、金銭管理が十分には出来ず母に小遣いをもらうなどしていたが、母も高齢で疾患ありのことに不安があり、本人が自立して生活していけるよう、生活スキルをあげるため、通勤券を利用することとなったため、今後の支援体制について役割分担を行う	通勤券では生活面での支援を受け、本人も意欲的に生活しており自立つ問題もない。退学後は本人の希望もあり住み慣れた一宮市で生活できるよう、引き続き一宮市の支援者との関係は継続し、関係者で連携とりながら見守っていく役割が果たされた。
2201	両親と同居して生活し、知的通所に通い安定した生活を送ってきたが、両親の高齢化、病氣により、家庭での生活が困難になった。通所施設のある法人で短期入所を利用して生活している。今後も通所したいとの希望をもとに、居住の場を検討	通い難れた通所施設の運営母体でケアホームの利用ができないが、施設側で検討する。困難な場合は他の事業所でのケアホームや通所の利用を再検討する。
2202	知的通所受入、介護保険サービス、ヘルパーを利用しながら生活していたが、脳性痙攣により入院し、胃ろうを設置した。身体能力も低下しており、これまでのサービスのままでは対応が困難であるため、自宅での生活を支えるための支援について検討	夜間のケアは家族間で調整。日中活動は通所施設施設での利用が可能施設側で検討。介護保険の利用は経済的負担が大きくなるようなケアマネで調整。自宅まで通わせるよう住宅改修を行うこととなった。
2203	本人を含めた3人の育児・介護について母の心理的・身体的な負担が大きい。本人は医療ケアが必須の状態。福祉サービスの利用の可否を含め医療サービスと組み合わせ、母の負担軽減を目的に支援ができないか検討したい。	母親と早期のショートステイの利用は難しい状況であることを確認し、今後はヘルパーなどによる家庭内での支援の拡充と児童デイサービスの利用を目標に、本児の体調の安定を待つこととなった。
2204	家庭内で弟や妹への暴力があり、精神科に一時入院となった。家庭内の問題解決の方法や退院後の支援内容を検討し、本人の希望する生活が実現できるように支援方法を検討する	就労については就業生活支援センターの支援を導入し、一般就労と福祉的就労の両方を検討。家庭内の暴力等の問題については、専門機関につなげ問題解決を図っていく。交友関係は
2205	養護学校卒業に伴い児童養護施設も退所となるが、家庭基盤が不安定で自宅での生活は困難もあり、退路を考えていく上でのような支援が必要となるか検討	自宅での生活、ケアホームでの生活それぞれにメリット、デメリットがあり、整理して本人に説明し、一般就労めざし取り組むとともに、生活の場をどのようにするか、本人、家族の希望をもとに関係者で支援。
2206	不安神経症にて自宅一人でいられない、外出ができない等の状況にある母親(精神3級)と2人暮らし。短期入所を利用するも定員の都合で帰宅。母親短期施設への不満があり再入所が延期になっているがパニック症状時や母親の機嫌がひどい体力的にも介護しながらの現在の暮らしを維持していくことは困難であり、今後の生活について対策を検討する	母の伯母が同居するようになり、1年余り前と同様の生活が戻っている。母の伯母が居ることにより母のパニック発作の心配は軽減し居宅支援サービスを減量した。以前に変わらず同居による不満はあるものの、それを利用事業所等に表現しつつ日々は過ごせることができている。経済状況は厳しいものがあるが、母親の管理で何とか暮らしている。
2207	幼少期に両親が家を出し、77歳の祖母と二人暮らし。近隣の方の厚意で生活面を支えてもらっているが、現状のままでいいのか関係者で集まり情報を共有し検討	さまざまな機関から支援者が関わるようになり、本児及び隣人にもストレスになっていた。他人の責めに過敏になっている様子もある。この点については隣人の方の話し合いの内容や考え方も先入見として影響している部分があるように思われ関わりが難しい
2208	9ヶ月前から精神科入院中。病状回復し、本人の希望もあり自宅へ退院したいが、収入もなく自宅はごみ屋敷状態である生活環境ではない。生活のための資金や、安定した生活が送れるように、退院のための支援、退院後の支援体制について協議、調整	自宅の片付けは業者に依頼する方向で見積もりを出し、金銭的な支援はいとが立替。土地所有しているため後見人による処分や財産管理を行う。本人のニーズをもとにヘルパーの支援や、今後の安定した疾病管理のために訪問看護や精神科デイケアが利用できるよう本人に視察し、生活を整えられるよう関係者で連携
2209	昨年12月におこなわれた個別支援会議後、様々な機関が彼を支援することにより、彼の人格を示す情報が多数集まりました。今回はこの情報を整理することで、彼が表現している様々な問題に対しての困り感の背景を探り、もともと今後のより意味深い支援を提供していける手がかりを探っていく。	GARSを用いることにより、客観的に本人の障害特性を知ることができた。また、母親への積極的な相談をおこなう中で、母親自身が精神的に安定し、それに伴って彼も家庭生活が安定してきている。
2210	母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの退路について検討	両親が転居により環境的には家族での生活が可能との報告もあり、本人と両親の希望に沿った環境で生活し就労して収入を得られるよう、選択が行えるよう、グループホーム等の見学や、就労地域の検討を行っていくこととなった。
2211	両親亡く、叔父夫婦の援助を得ながら生活してきたが、夫婦とも高齢となられ、これまでの生活を継続していくことが困難となったため、今後の生活をどのように援助していくかについて検討	生活場はGHを準備。金銭管理は成年後見制度を活用予定で、それまでの間は社協の日常生活自立支援事業を活用。退院は通院介助を申請。本人の健康状態を把握していく。
2212	父親が本人に対して大声で怒鳴る、暴力を振るう場面が度々見受けられる。付近住民が心配し警察に通報したこともある。各関係機関の認識を共有し、今後の支援の方向を検討したい。	父親には本人のADLが以前より低下していることを理解してもらい、暴力を振るわないようにしてもらった。また、居宅介護事業所にはコミュニケーションを取る際にジェスチャーを交えて分かりやすく話し合ってもらった。父親から友人に緊急時の連絡があった場合は友人から関係機関に連絡してもらおうように依頼する。
2213	本人は「家に居たい」と望んでいるが、どのような生活を送りたいかのイメージは全くない。退院後、独居の生活をどのように支えたいのか、妹に負担が掛りすぎない支援方法を検討したい。	生活介護や短期入所の体験を通して、本人が利用してもいいと思えるサービスを提案。日常生活の中で出てきた不安や不満を解消するための相談方法を、入院中に本人が身につけられるように支援していく。どこまでの状態になったら地域生活ができるかと判断するのが今後の課題。

表63 分析項目別全事例一覧表(会議の検討事項・結果)

2214	障害が重く、医療的ケアの頻度も高いため、学校卒業後、地域の支援体制が整わず、入院生活が続いている。退院後に家族の介護負担を軽減し、地域での生活ができるように支援体制を整えるための話し合いを行う。	入院中に日中活動を体験し、本人にも事業所にも無理なく利用できるように準備 訪問介護、訪問入浴などを活用して家族の負担を軽減する。準備が整い次第退院の日程を決めていく。
2215	単身生活を送っていたが、精神疾患を原因とする体調不良を訴え、施設入所を強く希望している。しかし、介護保険の認定は非該当となり、入所することができない。本人は精神的負担を感じ6月下旬入院するが、退院後の在宅生活に対する支援を検討したい。	介護保険の要介護認定再認定と障害程度区分の認定のための申請を各機関で行い、利用できるサービス内容をケアプランを作成する。
2216	介護保険への移行により、支援機関の引き継ぎとサービス提供機関との情報共有・支援方法について検討する	介護保険サービスの利用に円滑に移行できるように情報を共有する。特に、心臓疾患があるので健康面での観察は気を付けて行う。また、支援者に対して依存傾向があるため、本人の自立を妨げないような支援を心がけていく。
2217	障害者雇用で、岩倉のお徳で働いていたが、通勤途中自転車の前かごから財布盗みつかまった。仕事も解雇され、自宅と謹慎中だが親母との関係よくないため、今後の就労先、生活の場の確保を検討	本人の感情が不安定のため、精神科に定期的な通院を行い、カウンセリングを受けてみる。それで問題行動が修まるかが課題。一般就労は難しいと思われるので、就労継続の見学を行う。
2218	人間関係のストレスから開拓校に通えない日が増え家族や就業・生活支援センターで送り出しの支援を行うも、通えない日が続いている。開拓校・母子・就業・生活支援センターで面談を数回し本人のモチベーションを上げるため小遣いの管理することも約束した。8月下旬に嘔吐や失禁があると母親から相談有、病院で胃カメラ検査を行う予定。「就職したい。開拓校に通いたい」と本人は希望しているが現実と合っていない、本人の希望をかなえるため関係機関で集まり今後の支援方針を確認する。	開拓校に通えない要因として、生活の変化・学校での対人関係の戸惑い・母の借金(母が本人に相談する為のストレス)等関係機関で情報を共有。胃カメラ検査の結果を待ちDr.の所見を確認し、開拓校に通える支援を継続する。母親の金銭管理の不十分さ故の母親の愚痴がストレスとなる事は課題として残り、母親が外部に相談しない事から解決が困難。その為に本人がSOSを出しやすい支援機関との関係作りを行う。
2219	長女からの虐待から、福祉サービスの利用を開始した。本者は、新しく行う取り組みや仲間との出会いに徐々に良い表情を見せられるようになってきたが、その後、新たに次女が家に入り込んで来たことで、新たな虐待が始まった。現在、次女により福祉サービスの利用も止められている状況。今後の対応について関係者で協議を行う。	虐待からの救出方法を協議 母親の意向を確認後、本人と母の救出方法について再度関係者を招集し検討する。短期入所事業所の協力 地域包括支援センターの協力を要請
2220	親類の意向でこれまで療育手帳も取得せず福祉サービスにもつながらず自宅に引きこもりがちな状態だったが、親類の支援があり、相談支援や通所につながった。現在はボランティアとして利用しているため、本人の年齢や能力を考慮し、就労系のサービスの利用など、今後のステップアップに向け支援方針を検討	本人は親類に保護された生活を送ってきたため、今後の就労等に向けての活動にはあまり意欲的ではなかったが、今後の生活のイメージを具体的に持つてもらえるよう、福祉サービス事業所の見学を行い、利用を促し、意欲を高め、希望を元に支援体制が作れるようにする
2221	施設利用の現状の交流及び今後の施設利用の見通しの交流・利用料の滞納が続いている事への対応	・利用料に関しては、会議では毎日500円ずつの支払いをする話し合いをした。その結果、300円ずつ滞りする状況が続いた。しかし、母の失職と共に12月より滞っており、滞納の解消の展望が見えてきていない。
2222	母も本人もヘルパーを利用しているが、これまでも置いがかりとれる様々な事情により事業所は複数転々としている。今回も関係者が本人らの対応に諦めしており、本人については支援のヘルパー利用の必要性も少ないと思われる。人格的な要素が大きい本人、母に対して、支援者でどのような対応が適切か協議する	母と本人の共存関係から、支援者が今後対応に困難を感じ続けることは予想でき、人格的な問題も解決困難であることから、家庭の状況に変化が起こるなどのタイミングでの介入は行いが、支援者による積極的な関わりは行わない。母のケアマネも短い期間での交代などで負担軽減をはかる。
2223	様々な機関が御家庭に関わっているが、より意味深い支援を提供していけるよう関係機関に集まっていたいただき、それぞれの役割の確認と連携を深めていく機会とする。	それぞれの機関の役割を明確にしたことで、母親の混乱は少なくなってきた。今後年度が変わっても、引き続き関係者が同じ方向性でサポートしていけるよう、丁寧に繋いでいく必要がある。
2224	日常生活の諸問題から昼夜逆転し夜間徘徊をくり返し、いまいせ診療センターに約3ヶ月入院。10月3日に退院され、在宅生活が再開された。日中活動の安定を図るため、関係者で具体的な方策を見出したい	不定眠症で作業休みがち。母親の言動が本人を大きく左右しているため支援のあり方を検討しても難しさが残る。作業所では問題なく日課をこなし、対人関係等も活動している。本者が休む理由に特に原因と思われる要素はないと回答も受けている。
2225	H20年3月に母急逝後、多くの機関の協力により、必要な援助を組み立てることができ、生活も安定してきたが、父が大怪我をしたことや本者のニーズの変化、また将来に対する不安などの問題も生じてきたため、再度関係者で支援内容を協議する必要がある	食事メニューのこだわりから献立を視覚化し、レパートリーを増やしていく工夫を行う。排泄については、住宅改修をするなどの方法をとらなければ解決は困難。借金の整理はつき、将来に向けた生活の準備が必要になるため、権利擁護や財産分与など、将来設計を検討し、手続を行っていく。
2226	胡の通学時などにんかん発作あり、一度は意識喪失、擦傷を負う転倒も見られているので、以前のように自転車通学は危険で現在は保護者により送迎されているが、母親は就労しており、送迎が困難な日も多い。この点に福祉サービスを利用できないかとの相談が学校からあるが現状では難しい。安全面に対して具体的な対策を検討する	学校側での話し合いにより、家族の意向を理解し「徒歩での自力通学を認める」との見解がでた。安全対策として様々な実施される。てんかん発作に対して10月中旬より新薬で調整し以降、大発作は出ていない。
2227	今春、春日台職業訓練校を卒業し、地元企業に就職。両親不在のため祖母と二人暮らしとなったが、祖母の体調が悪く、12月より老人ホームに入居することができたため、福沢市の祖母宅で暮らし始めた。祖母宅で生活していくこともマンションで一人暮らしをしていくことも困難であるため、支援方法を検討したい。	将来一人で生活したい希望があるが、今は困難。祖母との生活も祖母宅での同居も不可能となったため、新たな生活場面の提供が必要。GH支援センターの協力で、GHの見学を行うことで生活のイメージを膨らませ、新たな生活の場を準備していく。きんせん管理は祖母の未成年後見から祖母の後見に変更していく。
2228	交通事故による高次脳機能障害と視野欠損の後遺症により精神障害が不安定である。就労を継続させたい意志があるが対人関係がうまくいかず休職中である。本人を地域で支えるための支援方法を検討したい。	家族との調整・キーマンの設定・長期、短期の目標を設定し、本人・家族に再度アセスメントを実施。また、本人の利用が継続している布袋病院へのデイケア内で役割や目標が設定できるように協力を求めていく。
2229	養護学校卒業前に、これまでの学生時代の情報を今後利用予定である障害者福祉サービスにつなぎ、さらに、卒業後の進路先の検討と必要な援助方法を整理し、卒業後に、本人の希望に沿った支援がスムーズに行えるように、関係者を集めて協議する。	養護学校在籍中に複数の福祉サービス事業を体験し、本人の希望や得意なこと、不得意なことがわかり、進路を就労継続支援事業に決定する。長期休みの家庭での過ごし方に課題があり、今後生活面への支援を検討していく。
2230	入院前は身の回りのことは自分でやったり、兄弟姉妹に声掛けして行うことが出来ていた。しかし、急激に低下し、声掛けなしには出来ない事が増えてしまった。兄弟姉妹の負担を軽減しながら地域で生活していく方法を本人、兄弟姉妹と共に考えたい。	外泊を繰り返して、本人の中で生活のイメージができるようになった所でヘルパーの支援内容や量について具体的に考えていく。日中は、入院前と同様で精神科デイケアを利用する方向とする。福祉サービス受給者証は、入院中に兄が申請する。
2231	養護学校卒業前に、これまでの学生時代の情報を今後利用予定である障害者福祉サービスにつなぎ、さらに、卒業後の進路先の検討と必要な援助方法を整理し、卒業後に、本人の希望に沿った支援がスムーズに行えるように、関係者を集めて協議する。	学校卒業後は就労継続支援事業を選択。自力通所できる能力はあると思われるが、進路を覚えるまでに支援が必要。将来の一般就労を目標に、就労移行支援も視野に入れて支援計画を立てていく。両親の離れに伴い、母子家庭となり、母が働かなければならなくなるため、今後生活支援の内容も検討していく必要がある。
2232	養護学校卒業前に、これまでの学生時代の情報を今後利用予定である障害者福祉サービスにつなぎ、さらに、卒業後の進路先の検討と必要な援助方法を整理し、卒業後に、本人の希望に沿った支援がスムーズに行えるように、関係者を集めて協議する。	卒業後は就労継続支援事業を選択。こだわりが強く、一度過ごし方のイメージを持ってしまおうと修正が困難になるため十分な準備をしておく。休日の余暇については、外出支援を利用し、お金の使い方の学習を継続していく。
2233	養護学校卒業前に、これまでの学生時代の情報を今後利用予定である障害者福祉サービスにつなぎ、さらに、卒業後の進路先の検討と必要な援助方法を整理し、卒業後に、本人の希望に沿った支援がスムーズに行えるように、関係者を集めて協議する。	・こだわりが強く、一度失敗してしまうと、その場所に行けなくなったり、活動に参加できなくなってしまうため、高等卒業後、スムーズに活動を切り換えていくための工夫を検討し、関係者で調整することができた。卒業後は生活介護事業に決定。卒業式直後からサービスを利用することを調整。
2234	養護学校卒業前に、これまでの学生時代の情報を今後利用予定である障害者福祉サービスにつなぎ、さらに、卒業後の進路先の検討と必要な援助方法を整理し、卒業後に、本人の希望に沿った支援がスムーズに行えるように、関係者を集めて協議する。	・本人の希望により、学校卒業後は就労継続支援事業を利用することに決定。将来的には一般就労も視野に入れ、就労移行支援も検討していく。
2235	夕食用に届けられている業者の弁当が口に合わないため残したり、箸をつかなかったりする。回の昼に配食サービスで取っている弁当は口に合う。その業者は夜の宅配を行っていないため、昼の配食サービスで受け取り弁当と食べたい。毎日デイケアに来なければならぬため、デイケアで弁当の受け取りがしたい。	自宅でお弁当を受け取ってからデイケアに来所する。【市の見解】配食サービスは安否確認が目的であるため自宅での受け取りが原則。夕食に対応できる業者が選べ、利用者の選択幅が増える事を望む
2236	本人は、生活費のほとんどを食費として使ってしまう。母親は本人が可愛いので自分の食費等を削ってまでお金を渡し、食費は赤字になっている。母親の日常生活自立支援事業利用開始に向けて、高年福祉課が行っている母親の金銭管理の状況を整理するため開催	母親には計画的に金銭管理ができるように1日分ごとに封筒に入れる。本人にお金を渡さないように、母親自身に金銭感覚を身につけてもらう必要がある。本人が(間接的に)金銭管理されることで負担が出た時どのような状態になるのか。また、金銭感覚、生活能力がどこまで改善されるのか、という課題が残る。
2237	本人がトイレを汚して掃除をしなかったり、兄の飲み物を勝手に飲んだりした時に、兄は殴る等してしまう。自宅での本人との関わりの確認をし、本人と兄とが適度な距離を待てるように短期入所の案内をするため	短期入所の利用を提案し、兄は「是非利用したい」と同意する。本人も同意した上で、短期入所の利用に向けて支援していく。緊急性の高い状況になった時、避難所に利用できる短期入所を望む。
2238	両親と同居、家事や育児をほとんど母親に任せており、金銭的にも援助してもらっている状態。母親への負担が大きく、「せめて働いて子どもたちにも母親らしい姿を見せて欲しい」と母親に背中を押され、独自に就職活動をするが見つからない。そこで、就労に向けて支援の方向性を考える事となった。	就労の経験はあるがプランクがあるため、まず就労移行支援事業所で働き、就労のイメージ作りをする。仕事に慣れてさらにステップアップしたいと思うようになった時には、再び就労・生活支援センターで相談に対応する。

8 ICFを基にした現状分析表（表1～53） 資料1

9 分析項目別全事例一覧表（表54～63） 資料2

10 表54分析項目別全事例一覧表（健康状態）の分析

(1) 主たる疾病名

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
精神発達遅滞	41	42
自閉症・発達障害	14	14
統合失調症	11	11
てんかん	5	5
脳性麻痺	3	3
そううつ病（うつ病）	2	2
脳血管障害	2	2
高血圧	2	2
精神発達遅滞疑	2	2
アスペルガー症候群	1	1
高次脳機能障害	1	1
適応障害	1	1
パニック障害	1	1
気分障害	1	1
ADHD疑	1	1
筋ジストロフィー	1	1
PKC（神経系の疾患）	1	1
結節性硬化症	1	1
腎機能障害	1	1
心臓機能障害	1	1
脳血管性麻痺（もやもや病）	1	1
感音性難聴	1	1
そくわん症	1	1
糖尿病	1	1

○解説

合併症のある方が37名（70%）であった。精神発達遅滞で合併症のある方が22名（42%）のうち、自閉症の方が14名（26%）であった。また、精神発達遅滞が合併症の方は脳性麻痺の方が2名（4%）、難病の方が3名（6%）、統合失調症の方が2名（4%）であった。

(2) その他

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
精神科入院・通院	26	48
小児科入院・通院	4	8
⑤脳外科通院	1	2
⑥泌尿器科通院	1	2
⑦循環器科通院	1	2
⑧神経内科通院	1	2
⑨内科往診	1	2
⑩胃ろうを設置	1	2
⑪頻繁に閉塞呼吸が出現	1	2
⑫髪の毛むしり・吐き気・失禁	1	2
⑬通院なし	15	28
合計	53	100

1.1 表5.5 分析項目別全事例一覧表（心身機能・身体構造）

(1) 精神機能

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
知的障害あり	41	77
(内訳) 軽度	13	25
中度	8	15
重度	20	38
知的障害疑い	2	4
精神的に不安定	11	21
こだわりが強い	11	21
意欲低下	2	4
妄想がある	2	4
安定している	5	9



(2) 運動機能

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
四肢のいずれかに機能障害がある	5	9
体幹機能障害あり	4	8
体力低下やふらつき等により歩行が困難	4	8
問題なし	38	72
不明	2	4

(3) 視覚・聴覚

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
聴覚過敏がある	6	11
視覚に何らかの問題がある	2	4
不明	4	8
他	5	9

(4) その他

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
摂食・嚥下に障害がある	2	4
身体の触覚過敏がある	1	2
吃音障害がある	1	2
満腹感がない	1	2

1.2 表5.6分析項目別全事例一覧表（生活機能・活動）の分析

(1) 歩行

○全事例を通した傾向

実行状況(している)			能力(できる)		
項目	件数	%	項目	件数	%
問題なし	38	71	問題なし	38	71
見守りや介助が必要	11	21	見守りや介助が必要	11	21
不可	3	6	不可	3	6
不明	1	2	不明	1	2
合計	53	100	合計	53	100

○解説

歩行できる能力のある71%の人は、実際にも歩行しており問題なし。また、見守りや介助があれば歩行できる能力のある人についても、実際には歩行しており問題なし。リハビリ中の人、杖を使ったり杖なしで単独で移動したりできても、ふらつき等があり、見守りが必要な人がいる。運動機能の維持が課題である。

(2) ADL

○全事例を通した傾向

実行状況(している)			能力(できる)		
項目	件数	%	項目	件数	%
自立	34	64	自立	31	58
一部介助や見守りが必要	11	21	一部介助や見守りが必要	11	21
全介助	6	11	全介助	6	11
不明	1	2	不明	2	4
練習中	1	2	幼児のために未獲得	2	4
			自分からやろうとしない	1	2
合計	53	100	合計	53	100

○解説

ADLが自立しているかあるいは一部介助や見守りがあればできる能力のある人は、共に全員が実際のADLも自立している。全介助が必要な人についても、実際には全介助となっている。気持ちが能力に追い付かず力を発揮できない人がいる。どんな背景があるのか確認する必要がある。

(3) 家事

○全事例を通した傾向

実行状況(している)			能力(できる)		
項目	件数	%	項目	件数	%
自分でやっている	6	11	可能	4	8
家族の支援を受けている	27	50	支援があれば可能	16	30
ヘルパーの支援を受けている	8	15	簡単な事は可能	4	8
家族とヘルパーの併用	4	8	行う年齢にない	8	15
家事をやる環境にない	2	4	やる気がない	4	8
児童のためなし	1	2	家族がやらせない	2	4
やらない	1	2	経験はないが意欲がある	1	2
教えてもらえば可能	2	4	不可能	8	15
不明	2	4	不明	6	11
合計	53	100	合計	53	100

○解説

多くの方が家族に手伝ってもらっている。家族が体調不良になるなど家族の支援が受けられなくなった場合、ヘルパー支援の需要が高まると予想される。

(4) 職業能力

○全事例を通した傾向

実行状況(している)			能力(できる)		
項目	件数	%	項目	件数	%
就労継続・就労移行・生活介護等	9	17	可能	5	9
過去に訓練や就労をしていたが現在はしていない	6	11	支援や環境が整えば可能	21	40
児童・学生・高齢のためなし	15	28	簡単な作業なら可能	6	11
実習中又は就職活動中	4	8	児童・学生・高齢のためなし	9	17
一般就労(障害者雇用を含む)	2	4	意欲がない	1	2
していない	9	17	不可能	3	6
手先が器用で理解力はあるが在宅生活の長さゆえに忍耐力がない	1	2	不明	8	15
手順や数にこだわりがあり能率を落とす	1	2			
不明	6	11			
合計	53	100	合計	53	100

○解説

過去に就労経験があり能力もあるが現在は就労していない方もいるため、どんな背景があるのかアセスメントが必要。支援や環境が整えば可能な方が40%いる。

(5) その他

○全事例を通した傾向

実行状況(している)			能力(できる)		
項目	件数	%	項目	件数	%
金銭管理が必要	5	9	金銭管理ができない	5	9
落ち着きなく絶えず動く	2	4	指示・誘導で安定する	1	2
異食がある	2	4	安全管理ができない	1	2
家族の介護をしている	1	2	異食の危険がある	1	2
地域の自助グループで活動	1	2	家族の介護を行う事ができる	1	2
入院中でソフトボールを楽しんでいる	1	2	衛生面の配慮できない	1	2
脳梗塞によりできない事が増え、意欲をそいでいる	1	2	体を動かす事が好き	1	2
主たる介護者の病気に伴い新たな支援が必要になった	1	2	脳梗塞の後遺症により活動制限がある	1	2
自宅にずっといるのが嫌	1	2			
包丁の勝手な使用	1	2			
散歩が日課	1	2			
専門学校卒業後在宅生活	1	2			
合計	18	35	合計	12	23

イ 解説

計画的にお金を使えない方が5名おり、内1人は兄が後見人をしている。金銭管理が必要な方は、個別支援会議後に日常生活自立支援事業に繋がっている。

1.3 表5.7分析項目別全事例一覧表（生活機能・参加）の分析

(1) 就労（一般・福祉）

○全事例を通した傾向

項目	件数	%	項目	件数	%
一般就労（休職中1人）	3	6	不明	2	4
求職活動中	4	8	就学中	14	26
就労していない	26	49	未就学児	4	8
			合計	53	100

○解説

就労していないケースは求職中のケースを含めると半数以上であるが、その内訳として知的障害者は21件、統合失調症7件、発達障害が1件、心臓機能障害が1件であった。その中で能力としては支援があれば可能と思われるケースが8件、能力不明なケースが10件、不可能と思われるケースが12件あり、半数以上のケースに就労を検討する余地があると思われる。年齢的には60歳代3件、50歳代が2件、40歳代が6件、30歳代2件、20歳代4件、未成年が1件。今年度に於いては養護学校高等部卒業見込みのケースが8件あり、それぞれに卒業後の生活について相談されている。この点を踏まえても就労支援の充実が地域の中で大切な要素と思われる。

(2) 福祉施設等の利用

○全事例を通した傾向

一般			就学児・未就学児		
項目	件数	%	項目	件数	%
利用していない	24	45	〈就学児〉		
知的通所授産施設	4	8	児童デイサービス	4	8
就労移行支援事業所	1	2	日中一時支援事業	7	13
就労継続支援事業所	1	2	移動支援	3	6
生活介護事業所	3	6	行動援護	1	2
地域活動支援センター	1	2	短期入所施設	3	6
短期入所施設	3	6	児童養護施設	2	4
職業開拓校	1	2	利用していない	3	6
通勤寮	1	2	〈未就学児〉		
ボランティア活動	1	2	児童デイサービス	2	4
			肢体不自由児訓練施設	1	2
			短期入所施設	1	2
			利用していない	1	2
合計	40	75	合計	28	53

\* 児については複数利用あり

○解説

利用していないケースの内、知的障害が13件、統合失調症が8件、高次脳機能障害、発達障害、心臓機能障害がそれぞれ1件ずつあった。また利用していないケースにおける実行能力として、可能と思われるケースは7件、不明なケースが9件、不可能と思われるケースは8件であった。利用していないケースについては、個別支援会議後に何らかの福祉サービスに繋がったと思われる。

(3) 趣味等

○全事例を通した傾向

項目	件数	%	項目	件数	%
ゲーム	8	15	カラオケ	3	6
テレビ視聴	5	9	音楽鑑賞	2	4
買物	4	8	電車を見る・乗る	2	4
喫茶店に行く	3	6	不明	15	28
DVD鑑賞	3	6	合計	45	85

○解説

上記の他に、チラシを眺める、車・バイク、サッカー、ドライブ、散歩、化粧、カタログ集め、手芸、自転車での外出、ラジオを聴く、雑誌を見る、飲食店で若い女性と過ごすこと、が各1件ずつあった。項目としては多くあがっているが趣味として捉えられない内容もあり、自己実現には至っていない印象と日常生活レベルにとどまっている現象がある。

(4) 地域活動等

○全事例を通した傾向

実行状況(している)			能力(できる)		
項目	件数	%	項目	件数	%
不明	34	64	参加能力あり	8	15
参加していない	8	15	不可能	9	17
親の会などの自助グループ	7	13	特別な配慮が必要	5	10
隣人との交流	4	8	不明	31	58
合計	53	100	合計	53	100

(5) その他

○全事例を通した傾向

\*記述のあったケースは10件

項目	件数	%
学校卒業後は自宅で過ごしている	2	4
事業所の行事や当事者活動の行事に参加している	2	4
友人と買物などを楽しむことができる	1	2
個人に適正な支援で外出でき、施設利用もできる	2	4
友人の影響で万引きなどの非行行為をしてしまう	1	2
飲食店で浪費がある	1	2
入院中は作業療法に参加していたが本人の意欲が乏しい	1	2
合計	10	19

1.4 表5.8 分析項目別全事項一覧表（環境因子・物的環境）

(1) 利用している福祉用具

○全事例を通した傾向

項目	件数	%	項目	件数	%
オムツ	1	2	視覚支援ツール	1	2
絵カード	1	2	スケジュール表	1	2
頸管栄養・在宅酸素	1	2	介護保険にて住宅改修を予定	1	2
保護帽・くつ	1	2	不明	1	2
シャワーチェア・バスボード・浴室の住宅改修	1	2	車イス	3	6
ベット・座位保持装置・吸引器	1	2	なし	40	74
			合計	53	100

(2) あるが利用していない福祉用具

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
ポータブルトイレ	1	2
歩行器・短下肢装具	1	2
杖や車イスは拒否	1	2
不明	3	6
なし	47	88
合計	53	100

(3) あれば利用したい福祉用具

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
視覚支援ツール	1	2
コミュニケーションツール	1	2
洋式トイレ（改修）	1	2
杖・歩行器	1	2
スケジュール帳	3	6
不明	5	9
なし	41	77
合計	53	100

○解説

発達障害の障害特性に合わせた支援ツールの利用ニーズがある。福祉用具として利用しやすいものの検討が必要。

(4) 住居の状況

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
持家	27	48
賃貸住宅	16	32
市営住宅	4	8
市内に自宅あり・両親居住	1	2
児童養護施設入所・実家は市外で両親が居住	1	2
叔母の家に同居	1	2
通勤寮	1	2
マンション(分譲)	1	2
不明	1	2
合計	53	100

(5) その他特筆すべき特記事項

○全事例を通した傾向

項目	件数	%	項目	件数	%
自宅環境が不衛生	3	6	自宅の敷地内にパン工房あり	1	2
自宅の老朽化	2	4	自宅での生活は本人望んでいない	1	2
自宅以外に不動産有	3	6	両親不在で年齢に見合う物的環境を準備する人がいない	1	2
同一敷地、または近隣に両親や親戚が住んでいる。	3	6	離婚調停中で実質母子家庭母が就労して帰宅が遅い	1	2
自宅はバリアフリーではない	2	4	途中同居の姉より食事を取りあげられるなどの虐待を受けている	1	2
マンションの3Fに住んでいるため、近隣に配慮必要	1	2	不明	6	12
通勤寮から勤務先まで1時間以上かかる	1	2	なし	26	46
実家は狭く家族が生活できる環境が整っていない	1	2	合計	53	100

○解説

住居そのものに関する問題では、老朽化やバリアフリー、ごみ屋敷などの問題がある。障害福祉サービスの導入で改善が可能な範囲もあるが、困難な場合の方策の検討が求められる。同居人や近隣住民との関係に配慮が必要なケースもあり、地域によるインフォーマルな支援をいかに得られるかは検討が必要である。

1.5 表5.9分析項目別全事例一覧表（背景因子（環境因子：人的環境））の分析

(1) 家族の支援

○全事例を通じた傾向（重複計上あり）

項目	件数	%	分類別傾向
両親が死亡又は行方不明	4	5	全体の7%が何らかの理由で両親共 いない世帯
両親と別居(施設入所等)	2	2	
家族に高齢者か障害者がいる	24	29	全体の42%が家族に健康上の問題が ある人がある世帯
家族の誰かに疾患がある	4	5	
家族が精神的に不安定	6	8	
一人親家庭	6	8	全体の8%がひとり親世帯
本人が家族に暴力をふるう	3	4	全体の16%が家族との関係不良によ り支援を受けにくい世帯
本人が家族から虐待を受けている	3	4	
何らかの理由で家族の支援は希薄 (単身赴任、受験中、関係不良、)	5	6	
本人が家族の支援を拒否	1	1	
家族がお金を無心する	1	1	
介護者が一人しかいない	10	12	全体の15%が家族がいないか介護者 が一人の世帯
一人暮らし(家族がいない)	3	3	
問題なし	10	12	全体の12%が問題なしの世帯
合計	82	100	

○解説

全体の約半数の世帯に、健康上問題があることにより家族支援が見込めないかあるいは困難な傾向がある。また、残る約半数の世帯のうち16%は家族との関係不良、15%は家族がいないか介護者が一人、12%が問題なしの世帯となっている。つまり、家族に健康上問題がなくても関係が不良になること、介護者が孤立化すること等により家族への負担は増し、家族の支援力は弱まる。

(2) 友人との交流・支援

○全事例を通じた傾向

項目	件数	%
何らかの交流がある	33	62
交流なし	14	27
不明	6	11
合計	53	100



(3) 近隣との交流・支援

○全事例を通した傾向（重複計上あり）

項目	件数	%
民生委員の見守りあり	2	4
何らかの交流がある	10	19
交流なし	13	25
不明	29	55

(4) 関係者との交流・支援

○全事例を通した傾向（重複計上あり）

項目	件数	%
支援者との関係は良好	45	85
何らかの理由で関係は不安定(関係者への苦情含む)	2	4
支援者を選び好みする	2	4
支援者に依存的	2	4
不明	5	9

(5) ボランティア等その他の人的交流・支援

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
喫茶店の店主	1	2
民間シェルター利用者	1	2
親戚	1	2
父親・母親の友人	2	4
叔父夫婦	1	2
元夫	1	2
なし、不明	46	86
合計	53	100

16 表60分析項目別全事例一覧表（背景因子（環境因子：社会環境））の分析

(1) 利用している制度

○全事例を通した傾向（重複計上あり）

項目	件数	%	備考
療育手帳所持	41	77	A判定22件(41%) B判定6件(11%) C判定13件(26%)
身体障害者手帳	14	26	1級5件(9%) 2級2件(4%) 3級4件(8%) 4級1件(2%) 5級2件(4%) 6級2件(4%)
障害年金受給	14	26	等級の内訳は不明
精神保健福祉手帳	9	17	1級0件(0%) 2級8件(15%) 3級1件(2%)
生活保護受給	9	17	
成年後見人制度	2	4	

(2) あるが利用していない制度

○全事例を通した傾向

項目	件数	%	項目	件数	%
療育手帳	2	4	移動支援	1	2
精神保健福祉手帳	1	2	居宅介護	1	2
就労移行支援	1	2	グループホーム	1	2
就労継続支援	1	2	成年後見人制度	1	2
地域活動支援センター	1	2	子育て支援	1	2
日中活動系事業所	1	2			

○解説

少数だが、制度の利用に至っていないケースもある。利用に至らない原因は様々であろうが、速やかに利用につながるよう支援する必要がある。

(3) 利用している公私のサービス

○全事例を通した傾向（重複計上あり）

項目	件数	%	項目	件数	%
居宅介護	15	28	地域活動支援センター	1	2
日中一時支援	7	13	通勤寮	1	2
短期入所	7	13	介護保険訪問介護	1	2
移動支援	7	13	介護保険介護予防 訪問介護	1	2
児童デイサービス	6	11	母子通園施設	1	2
知的通所授産施設	5	9	児童養護施設	1	2
精神科訪問看護	5	9	肢体訓練施設	1	2
精神科デイケア	3	6	障害者就業・生活支援セン ター	1	2
生活介護	3	6	福祉有償運送	1	2
配食サービス	3	6	福祉タクシー	1	2
行動援護	2	4	24時間対応の電話相談	1	2
就労移行支援	2	4	精神科訪問リハビリ	1	2
介護保険デイサービス	2	4	精神科外来作業療法	1	2
言語訓練	2	4	栄養指導	1	2
精神科入院	2	4			
相談支援	2	4			

(4) あるが利用していない公私のサービス

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
障害福祉サービス	5	9
短期入所	4	8
居宅介護	3	6
就労支援	2	4
生活介護	1	2
児童デイ	1	2
居住支援	1	2
日常生活自立支援事業	1	2
放課後支援	1	2

(5) あったら利用したい制度・サービス

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
ある程度の金額が受給できる職業訓練	1	2
通い慣れた施設に通いながら利用できる居住の場	1	2
ごみ屋敷の片づけ	1	2
医療的ケアのできる居宅介護	1	2
障害者虐待に対応できる制度	1	2
トイレ・風呂の住宅改修	1	2
夕方の配食サービス	1	2

1.7 表6.1分析項目別全事例一覧表（背景因子（個人因子））の分析

(1) 生活観（実現したい生活）

○全事例を通した傾向（重複計上あり）

項目	件数	%	項目	件数	%
今の生活を維持したい	3	5	施設に入りたくない	1	2
結婚をしたい	1	2	安定した生活をしたい	5	9
自宅で生活をしたい	6	10	安心した生活をしたい	2	3
家族と暮らしたい	6	10	穏やかな生活をしたい	1	2
一人で暮らしたい	2	3	気ままな生活をしたい	1	2
グループホームで暮らしたい	2	3	就職をしたい	8	14
寮で暮らしたい	1	2	昼間福祉サービスを利用したい	8	14
施設で暮らしたい	1	2	不明	10	17
			合計	58	100

(2) 価値観 (大事にしていること)

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
不明	41	77

不明以外

- ・気ままな生活 ・警察沙汰にならないようにする ・無理して就職を急がない
- ・変化のない生活パターン ・隣人宅との関わり ・同居の女性と生活をしていく
- ・自立したい ・母と暮らすこと ・お金 ・母親が決めた生活習慣
- ・一定のリズムの中での生活 休日の過ごし方 ・あまり人に干渉したくない
- ・別居している息子の成長を見届ける事

(3) 独自の生活習慣等

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
個人因子からの問題	28	53
背景因子からの問題	3	6
不明	22	41
合計	53	100

個人因子

- ・寝たばこあり ・四六時中ゲームばかりやっている ・お風呂に長く入る
- ・自宅では常に全裸で過ごす ・排泄をバケツの中でする
- ・飲酒、生活の乱れがある ・外出をすると大量に買い物をする など

背景因子

- ・預金があるため浪費が激しい
- ・働かなくても財産で生活をしていけると考えている など

(4) 未解決の生活上の問題

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
個人因子からの問題	26	49
背景因子からの問題	18	34
不明	9	17
合計	53	100

個人因子

- ・母親に対する他害や物を壊すなどの行動 ・人を押してしまう
- ・金銭管理ができない ・自宅がゴミ屋敷になっている ・対人関係が上手くいかない
- ・不安や不満の解決方法の獲得 ・盗撮、盗癖、ちかん
- ・働く意欲がない ・てんかん発作のコントロール ・肥満傾向 など

背景因子

- ・子どもに避けられている ・兄弟の仲が悪い ・両親の関わりが希薄
- ・母親との喧嘩 ・家族以外の人からの十分な医療的ケアを受けられない
- ・姉からの虐待に対処できない ・姉が不登校で母親が精神的に不安定
- ・幼児期からの虐待の影響 ・周囲の悪友からの影響 など

(5) その他の特記事項

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
記述なし	46	86
記述あり	6	14
合計	53	100

・過去にホームレスの人と一緒に路上生活をして家に帰らなかった時期があった  
 ・未成年後見の検討が必要 ・家の借金はすべて返済  
 ・携帯を持ち、メール交換ができるようになった  
 ・母親を独占したいと求めるも、母親の言動や金銭管理に不満がありストレス要因となる  
 ・家事をやる気持ちがなく、母やヘルパーにやってもらって当然と思っている

18 表6 2分析項目別全事例一覧表（会議参加者（参加状況））の分析

(1) 本人

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
参加	21	40
参加なし	31	58
拒否	1	2
合計	53	100

(2) 家族

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
参加	37	70
参加なし	16	30
合計	53	100

《参加者の内訳（重複計上）》

母のみ	18	34
父のみ	4	4
両親	3	6
兄弟	8	15
妻	1	2
いとこ	2	4
叔母	1	2
その他	2	4

○解説

前項（1）で、本人の参加がないケースも半数以上あり、本人参加が困難な場合は本人の代弁者となる家族等の出席が必要である。本人・家族いずれも参加がないケースが12件（23%）あるが、本人参加が事情により困難な場合は、話し合われた内容を基にした支援を、どのような形で本人に届けることが最適切か、適切な判断が支援者に求められる。

(3) 私的関係者

○全事例を通した傾向

項目	件数	%	備考
成年後見人	2	4	
民生委員	3	6	
その他	6	11	民間シェルター管理者・勤務先上司・就労先企業の代表・義理の祖母・父の友人・フリースクール担任
なし	42	79	
合計	53	100	

○解説

インフォーマルな支援ともなる私的関係者の参加により、本人の地域生活支援が強化されることが見込まれるが、そういった関係者の把握は困難な面もあるためか、「参加なし」が79%となっている。

(4) 医療関係者

○全事例を通した傾向（重複計上あり）

傾向		件数	%
精神科	PSW	11	21
	デイケア担当	4	8
	訪問看護	1	2
	医師	2	4
	看護師	2	4
	臨床心理士	1	2
一般科	MSW	6	11
	訪問看護	3	6
	訪問リハビリ	1	2
他	肢体訓練施設看護師	1	2
なし		32	58

(5) 保健関係者

○全事例を通した傾向

項目	件数	%
保健所	3	6
保健センター	1	2
なし	49	92
合計	53	100

## (6) 福祉関係者

○全事例を通した傾向（重複計上あり）

項目		件数	%	備考
相談支援	相談支援事業所	48	91	
	就業・生活支援センター	11	21	
	療育サポートプラザ	5	9	
障害福祉サービス事業所	居宅介護	21	40	
	就労移行	7	13	
	就労継続B型	6	11	
	生活介護	7	13	
	短期入所	5	9	
	共同生活介護・援助	6	11	
	児童デイサービス	5	9	
	日中一時支援	5	9	
	地域活動支援センター	1	2	
旧法施設	知的障害者通所授産	2	11	
	知的障害者通所更生	1	4	
	知的障害者入所更生	1	2	
	知的障害者通勤寮	1	2	
障害関係その他	重症心身障害児（者）通園事業B型	1	2	
	福祉用具事業所	2	4	
児童関係	児童相談センター	5	9	
	子育て支援課	3	6	
	児童養護施設	2	4	
	その他	4	8	保育園・小学校・肢体不自由児訓練施設・知的障害児通園施設
高齢者関係	地域包括支援センター	7	13	
	ケアマネージャー	5	9	
	高年福祉課	4	8	
	デイサービス	2	4	
その他	社会福祉協議会	6	11	日常生活自立支援事業担当
	生活福祉課	5	9	生活保護担当
	県心身障害者コロニー地域移行推進課	2	4	
	福祉課	37	70	（個別支援会議事務局）

## ○解説

相談支援は会議開催依頼者となっており、出席は100%となっている。対象者の関係機関は多岐に渡り、すべての機関の召集には困難を要するが、多くの機関の出席があることから、関係者の支援向上のための意識がうかがえる。

19 表63分析項目別全事例一覧表（会議の検討事項・結果）の分析

(1) 会議での検討事項とその結果を含めた各ケースの課題  
(KJ法により分類。重複計上あり)

大分類	小分類	各課題	件数	内容・備考
居住	居住	生活の場の確保	11	即座(8件)、将来的(3件)
		家の中に居場所がない	1	
		安心して暮らせる場所の確保	1	
	住環境	不衛生・ごみ屋敷等の住環境の改善	4	
家族	家族の負担軽減	母親等家族の大きな介護・育児負担の改善	3	
		家族の不安軽減	2	
		兄のサポート	1	
	家族の問題	家族の介護能力が低い	16	
		家族も障害・疾病・精神不安定などの問題あり、支援が必要	9	
		家族からの暴力・虐待	6	
		家族関係が悪い	4	
		家庭内が不安定	1	
		本人に対する両親の関わりが希薄	1	
		介護者が周囲の協力を拒否する	1	
		生活保護世帯に同居人がいる	1	
障害特性の理解・対応	障害の理解	障害手帳の未取得	3	
		家族の障害特性理解が不十分	3	
		支援者の障害特性の無理解	3	
		障害特性に応じた自宅の環境調整が必要	1	
		問題行動の背景の読み取り、分析の難しさ	1	
		障害の適切な診断が得られない	1	
		友人が欲しいが、上手くコミュニケーションがとれない	1	
	自閉症	障害特性(こだわり)による問題	7	問題行動がある・生活習慣が改善できない
		診断の遅れによる2次障害	1	
		親との関係	1	



障害特性の理解・対応	パーソナリティ障害	家族等への暴力・他害行為	2	
		自宅で母親と二人で過ごす際に不安定になりやすい	1	
		自立して生活できない	1	
		本人の被害者意識	1	
		理不尽なクレームがある	1	
		ヘルパー事業所を何度も変えている	1	
		支援者が脅かされているような気持ち	1	
	その他の障害特性による対応の困難さ	障害により心の安定がはかれない	3	
		ストレスによる身体症状、自傷行為	3	環境の変化、対人関係
		日常生活、生活リズムの改善	2	
		生活能力の低さ	2	
		医療的ケアが必要	2	
		高次脳機能障害の専門的な支援	1	
		移動の際てんかん発作の危険性がある	1	
		支援の受け入れ困難	1	
		単身生活を送ることへの不安	1	
	支援者の連携	自宅での行動をパターン化する	1	
		帰りの作業所からのバスに乗れない(時間が守られない)	1	
		支援方針の統一	2	
障害福祉サービス	福祉サービス問題	障害特性に合わせた取り組み	2	精神障害・発達障害
		支援会議への参加に関すること	2	参加に消極的、支援機関漏れ
	ヘルパー	サービス内容の充実や対応可能な事業所の確保	8	放課後支援、てんかん発作への対応、短期入所、利用者の身体能力低下への対応
		卒業式後、すぐに福祉サービス利用ができない	5	
	日中活動	家事支援が必要	3	
		ヘルパーへの要求過大	1	
	地域移行	本人の自立を妨げないような支援	1	
		利用できる事業所の確保	5	適した事業所・医療的ケア・事業所都合
	介護保険	通所手段の確保	2	送迎困難(自力通所)・送迎がない(実費負担)
		医療機関退院後の支援	4	精神科長期入院・難病
介護保険	介護保険サービスへの円滑な移行	2		
	要介護認定、障害程度区分による利用施設の制限	1	入所施設	

日常生活	金銭	金銭管理が困難	8		
		経済苦	6	借金、収入が少ない・親への経済的依存	
		サービス利用料金に関する困難	2	施設利用時の昼食代・配食サービス（夜間）	
		成年後見制度の利用	4		
	余暇	外出時の余暇に関する不満	2	満足できない、好きな所にいけない	
		長期休みに関する問題	2	過ごし方について	
		希望をかなえるための支援	2	好きな人と暮らしたい、スポーツをしたい	
	地域との関係	交流なし	1		
		トラブルになる	1		
		悪友の影響で問題を起こす	1		
	健康管理・服薬管理	健康管理ができず、健康が保てない	1		
	就労	就労	就労の場の確保	5	
			収入の確保	4	一般就労・職業訓練
職場での障害理解			2		
就労の継続に関する支援			2		
就労意欲の確保			1		
学校	学校	学校との情報連携	6	卒業時の引継ぎ	
		進路先	6	場の確保	
		不登校	1		
触法	触法	触法行為の防止対策	2	盗癖、痴漢など	

## 20 全体のまとめ・考察

### (1) 事例の要因分析から明らかになった対象事例の全体像

#### ① 表54 (健康状態)

精神発達遅滞(知的障害)を主病名に持つケースが最も多く77%あった。次いで自閉症・発達障害が26%、統合失調症が21%となっている。少数だが、難病のケースもあった。また、合併症として自閉症やその他の精神疾患を併せ持つ人も多い。精神疾患や身体疾患のフォローのため、医療機関との連携は必要不可欠である。また、現在医療的な支援を受ける状態にないケースも、障害特性に応じて医療支援が必要となることも想定される。医療との連携は常に考慮しておく必要がある。精神科に入院や通院している方が全体の48%おり、利用している診療科の中では目立って多くなっている。

#### ② 表55 (心身機能・身体構造)

知的障害により、判断能力や認知機能などの精神機能に影響があるケースが77%あった。また、精神疾患等で不安定な精神状態にあるケースも多く、安定しているケースは9%と少数である。支援の方向性を検討する際、判断能力等が十分な状態ではない障害の方にとって、本人のニーズに基づいて適切な支援方針が設定できるよう、支援者による配慮が求められる。また、発達障害の特性によるものと思われるが、視覚や聴覚の刺激に配慮が必要なケースがある。障害特性に合わせた支援が必要とされている。

#### ③ 表56 (生活機能・活動)

ADLが自立のケースは64%あったが、うち8%のケースは経験不足や意欲の問題等により支援を受けている。また、家事については家族やヘルパー等の支援を受けて生活しているケースは73%あり、うち家族の支援が50%を占めている。児童のケースも含まれていると思われるが、家族による介護支援が多く提供されていることがわかる。ヘルパー等の利用についても、本人の能力を活かした支援を提供するためには、本人の詳細なアセスメントに基づく支援の工夫が必要となる。身体能力等により全介助が必要な方も11%あり。必要な支援が十分に届いているか、定期的な確認も必要である。

職業能力に関しては、支援や環境によっては可能なケースも40%あり。具体的な方法を検討する必要がある。

金銭管理について苦手とするケース、障害のために安全な判断ができないなど、生活場面の多岐にわたり個々に合わせた支援が必要とされている。

#### ④ 表57 (生活機能・参加)

一般就労は6%あり。就学、未就学児は34%あり。就労していないケースは51%あり。表56(生活機能・活動)の職業能力について、支援があれば可能というケースは40%あった。就労していないが支援によっては可能と思われるケースへの対応が必要とされる。就労していないケースのうち、能力として、支援があれば可能と思われるケースが8件、能力不明なケースが10件、不可能と思われるケースが12件あった。半数以上のケースに就労を検討する余地がある。また、養護学校卒業時に進路について就労や日中活動の利用について相談があり会議開催に至ったケースもあり。就労支援や日中活動の場の充実が求められる。日中活動については、利用がない

ケースも42%あり、会議後に利用につながったケース、諸条件により利用が不可能になっていたり、本人の意欲の問題などで利用に至らないケースなど様々あるが、本人が利用を望んでいたり、利用が適切な場合は、利用できない背景を明らかにし、課題解決に取り組む必要がある。

趣味等の把握は本人との関係形成に有効である。また、記載された内容には、障害特性による反復行動であるとも思われるような記載もあり、自己実現のために年齢相応の趣味が選択できているとは考えにくい内容となっていることから、不明のケースも含め、今後も把握に努め、趣味等の選択肢や、本人の活動の幅を広げられる支援が行えるとよい。

地域活動について、不明のケースが64%あり。インフォーマルな支援となる地域住民等との関係についても把握に努め、適切な協力が得られるようにしたい。

#### ⑤ 表58 (背景因子 (環境因子 : 物的環境))

福祉用具では発達障害の障害特性に合わせた用具の利用ニーズがあった。今後もニーズは高まると思われるため、本人にとって利用しやすい用具が普及していくことが望まれる。また、新しく開発された用具などの情報の提供も必要と思われる。

生活環境である自宅については、不衛生・ゴミ屋敷であったり、バリアフリーや交通アクセスの問題など、障害者にとって住みよい環境ではないケースが20%あった。安心して生活できる居住の場の確保が必要である。ゴミ屋敷等の改善は多額の費用を要することもあり、予防策、解決策の考察が必要である。

#### ⑥ 表59 (背景因子 (環境因子 : 人的環境))

家族の介護力が十分に得られないケースが88%ある。家族の障害や疾病、高齢化等で家族自身にも支援が必要な場合は、適切な支援者との連携が必要である。また、家族との関係不良や虐待等の可能性があるケースもあり、強制力をもった保護のための支援などの方策が必要とされ、状況に応じた早急な検討が必要である。

#### ⑦ 表60 (背景因子 (環境因子 : 社会環境))

手帳や年金など公的制度の利用がされていない、もしくはできないケースや、同じく障害福祉サービスも利用ができていないケースがある。本人の状況により適切な支援が利用できることが望ましい。公的な制度に関しては周知の問題もあるため、ライフステージに応じた場面での案内体制が確保されている必要がある。

また、公的なサービスとして利用したい内容についての具体的なニーズが複数あり、具体的な施策に結びつけるためには、詳細な状況の把握のためアセスメントが必要である。

#### ⑧ 表61 (背景因子 (個人因子))

生活観では、自宅での生活、家族との生活、安定した生活等を望むといった記載が多い。サービスの利用や、結婚などの希望があるケースもあった。価値観は不明のケースが多く、生活支援のためにアセスメントは必要である。また、支援者からは問題となるような生活習慣や生活上の問題があるといったケースも多く、個別支援会議での具体的な検討課題となっている。本人の希望、意欲に基づき問題を改善していくために適切な支援や時間が必要となる。

## ⑨ 表62 (会議参加者 (参加状況))

本人参加が40%であり、半数以上は本人不参加である。本人のために行う支援会議であるため、参加・不参加問わず、本人にとって有益となるような会議開催が行えるように取り組む必要がある。障害福祉サービス事業所が多く参加していることはもちろんであるが、医療機関や保健所等の専門機関の参加もケースによってあり、保健、医療、福祉の連携や地域関係者のネットワークを構築していくために、意識的に関係者の参加促進を図り、多角的な支援でケースを支える必要がある。また、フォーマルな機関のみではなく、地域住民や民生委員等の参加も地域生活を送る上で、参加が重要となる。情報把握に努め、幅広い支援機関が連携して支援を展開できるよう、会議を有効に活用していく必要がある。

## (2) 個別支援会議の課題について

表63の分析より、課題を以下の8のカテゴリーに大きく分類した。小さくは21に分類されている。各分類で多かった課題や、検討が必要と思われる内容について以下に記載する。

### ① 居住 (居住・住環境)

#### ア 居住

障害のあるかたの居住の場の確保や、安心して暮らせる場の確保が課題となっている。地域で安心して生活するため、ケアホーム等の早急な整備が必要とされている。

#### イ 住環境

居住の場があっても、環境が整っていないという問題がある。単身生活などで衛生状態が悪かったり、いわゆるごみ屋敷状態の自宅もある。公的な支援では対応が困難な状態になっているケースについて、具体的な解決策や予防策を検討する必要がある。

### ② 家族 (家族の負担軽減・家族の問題)

#### ア 家族の負担軽減

介護が必要とされる度合いの高いケースや、障害特性のために対応に困難さを伴うケースについては家族の負担は大きい。負担軽減のために福祉サービスの利用を検討するが、専門的な支援や、サービスでは対応できない医療的ケア、夜間のケアなどについて課題となっている。

#### イ 家族の問題

家族自身に障害や高齢、疾病などの問題があったり、介護能力が低い場合は家族にも支援が必要となる。家族支援のための関係機関の連携が必要である。また、家族との関係悪化や虐待の問題については、介入が現状困難な面もあり、法的整備も含め具体的な対応を検討していく必要がある。

### ③ 障害特性の理解・対応 (障害の理解・自閉症・人格障害・その他・支援者の連携)

#### ア 障害の理解

手帳を取得していないことで公的な支援につながらなかったり、家族はじめ支援者等の周囲からの理解が十分でないことから支援内容が整わないことが想定される。特に発達障害などは適切な診断が得られる医療機関や、支援者の理解が求めら

れる。協力機関との連携が必要となる。

#### イ 自閉症

自閉症という障害特性に合わせた支援内容を具体的な検討事項とした会議も持たれ課題があがっている。初期の対応によっては、二次障害の発生も危ぶまれるため、幼少期からの対応や親への支援など、周囲の理解と支援が必要とされている。

#### ウ 人格障害

対人関係の不安定さに支援者も巻き込まれる可能性が高く、ケースとの適切な距離を保つための対応が必要とされる。場合によってはクレーマーと扱われていたり、ベースに発達障害を疑わせるなど、適切な対応とそのためのアセスメントが必要とされる。関係者での連携が重要となり、対応について医療機関からのアドバイスが重要である。有効な会議の活用が望まれる。

#### エ その他の障害特性による対応の困難さ

障害特性から、環境の変化に弱くストレスを感じやすく、身体症状や問題行動を引き起こすケースへの対応など、心理的ケアも含めた環境の調整など、専門的なケアが必要とされる。また、高次脳機能障害や、てんかん発作、そのほかの疾患に対応する医療的ケアなど、それぞれの持つ障害への具体的、専門的な対応についても課題となっている。

#### オ 支援者の連携

上述の障害特性への対応のためには、連携は不可欠である。支援方針統一のために、参加すべき機関が揃っての検討が行われる必要がある。

### ④ 障害福祉サービス（福祉サービス問題・ヘルパー・日中活動・地域移行・介護保険）

#### ア 福祉サービス問題

養護学校等卒業後に進路として障害福祉サービスを選択する場合に、卒業式後の春休みにすぐに福祉サービス等が利用できないため、利用が開始されるまでの休暇の過ごし方について課題が残っている。そのほか、放課後支援や、利用者のニーズに合わせた支援メニューが足りていないことが課題となっている。

#### イ ヘルパー

単身生活者や家族の負担軽減のためなど、ヘルパーの支援内容は多岐に渡り、本人にとって身近な存在である一方、支援内容にも困難性がある。適切な利用や対応の検討とともに、ヘルパーに対する支援策も今後の検討課題である

#### ウ 日中活動

医療的ケアの問題などから利用できる事業所がないなど、本人のニーズに合致する事業所がない場合がある。また、事業所への通所について、送迎困難な場合など、有償サービス等を利用せざるを得ず実費負担が発生するなど、通所手段についても検討課題となっている。

#### エ 地域移行

精神科長期入院者の退院に向けた地域移行について、長期入院により失われた生活スキルや安定した生活の支援のために福祉サービスの利用が必要となる。居住の場についても課題がある。個々のケースの抱える課題は多岐にわたると想定される。

#### オ 介護保険

65歳時から、または特定疾病により、介護保険の利用へと移行するケースもあり、制度上の差により本人への直接の変化が避けられない。スムーズな移行のために、制度上の見直しや対応も含めた検討が必要とされる。

⑤ 日常生活（金銭・余暇・地域との関係・健康管理、服薬管理）

ア 金銭

本人による金銭管理が困難であったり、借金や収入が少ないことによる経済苦があがっている。本人の保護のために成年後見制度の利用も必要とされている。

イ 余暇

外出時の余暇支援や長期休暇での対応が必要とされている。また、余暇に求める本人の希望が十分に満たされる支援も必要とされている。フォーマル、インフォーマルを含め、幅広い選択が行えるような支援が必要である。

ウ 地域との関係

地域での生活に地域住民との関係は重要である。トラブルがある、悪友がいる等で、支援者による調整が必要となっているケースもある。

エ 健康管理・服薬管理

障害のため判断能力が十分でないこと等で自身の健康管理が行えないケースもある。家族による支援や、医療機関、訪問看護等との連携により、健康状態の安定を図る必要がある。

⑥ 就労

就労の場の確保、収入のための就労や職業訓練の確保など、就労に関する課題があがっている。また、就労場面での対人関係支援や、職場での理解、本人の就労意欲の確保など、就労に伴うさまざまな面からの支援が必要とされている。

⑦ 学校

養護学校等を卒業するに伴い、障害福祉サービス事業者や相談支援機関等との連携が必要となる。スムーズな連携、進路先の確保が課題となっている。

⑧ 触法

軽犯罪等の触法行為が自己判断では止められず、防止のための支援が必要とされている。警察や、専門支援機関等との連携が必要である。

(3) 今後の協議会の方向性について

平成22年中に開催された個別支援会議のうち、整理した53件の検討ケースについて、前述したような共通する課題はもちろん、直接支援の内容としては個別の対応になるため、ひとくくりにできない多種多様な課題が残っている。今回の分析結果を参考に、今後の自立支援協議会での検討事項としていくべき課題を整理する。

現在、一宮市自立支援協議会ではこれまでの分析の結果を参考に、生活支援部会、発達支援部会が発足し活動を行っている。個別支援会議で課題となった、①居住に関すること、④障害福祉サービスのうちヘルパーに関すること、⑤日常生活のうち金銭管理に関すること等については、実態調査やヘルパー研修会の主催、金銭管理事業のモデル作成などが具体的な動きとしてあり、これらは継続が必要である。

また、③障害特性の理解・対応のうち自閉症への対応については、発達支援部会において、各関係機関連携の下支援体制の構築について検討中であるため、本件についても継続が必要である。支援者の養成や、家族への支援方法など、障害特性に応じた支援体制整備が必要である。

件数で比較すると、今回の個別支援会議の課題として多くあがっていたものは、上述した部会での検討事項を除くと、「家族の問題」、家族の介護能力の低さや家族支援についてが最も多く、合わせると25件となる。表59の背景因子（環境因子：人的環境）の分析においては、（1）家族の支援について、「問題なし」は12%となり、反対に、家族の介護力が十分に得られないケースが88%となっている。家族自身に直接支援が必要な場合や、介護負担による軽減が必要な場合など、状況は様々であると思われ、家族支援のためには対象者の状況によってさまざまな関係機関の連携が必要となる。今後も個々の事例に応じて個別支援会議の活用を期待したい。

その他、学校に関する課題が計13件となっている。「学校卒業後の進路先の確保」が6件、そのための「学校との連携」も検討課題としてある。卒業にともなう学校との連携体制の整備や、進路先として福祉サービス事業所の拡充や就労先の確保など、取り組みが必要である。

また、就労に関する課題が計14件となっている。上述した学校卒業後の進路についても本件が絡むことになると考えられるが、主には、「就労先の確保」や、「収入の確保」について課題としてあがっている。職場での支援や、理解についても検討課題となっている。表56の職業能力に関する分析でも、支援や環境によっては可能といったケースが40%あった。障害者の就労については、課題があることは認識できるも現在協議会として具体的な検討の場を持つに至っていないため、本件についても検討の場が必要となっている。

その他にも、長期入院者の地域移行や、成年後見等の権利擁護に関すること、自宅の不衛生な環境の改善（ごみ屋敷への対応）なども課題として各4件あり。住居については住みよい環境でないと思われるケースが、表58背景因子（環境因子：物的環境）の分析からも20%あることが読み取れる。各相談先の確保や具体的な対応などを検討する必要がある。

個別の課題については多岐にわたっており共通事項とまではなりえないが、触法行為や虐待事例など小数の事例については、昨年（平成21年）の分析でも同様に課題としてあがっている。いずれも検討は必要とされる事項である。

上述した課題が本分析作業において明らかになった課題であり、一宮市の課題として取り組むべきものであると考える。今後の具体的な部会の設置等、組織的な取り組みについて、自立支援協議会として検討していきたい。